

## V.1. 教員の教育研究・社会貢献活動

(2016年11月1日～2018年3月31日)

### (1) 言語文化専攻

#### 【言語文化比較交流論講座】

小門 典夫 (KOKADO Norio) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 比較言語文化論

〈共通教育担当科目〉 中国語初級、国際教養科目

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ルールに基づく多言語対応型機械翻訳ソフトの開発

小杉 世 (KOSUGI Sei) 准教授

<https://sites.google.com/site/seikosugi/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語文化変容論

〈共通教育担当科目〉 英語 (Reading)、実践英語、専門英語基礎

〈学部教育担当科目〉 言語文化比較交流論

[研究活動]

〈研究テーマ〉 英語圏文学、オセアニアの先住民・移民文学文化と先住民言語教育、ポストコロニアル文化形成論、モダニズム研究、演劇とコミュニティ、環境芸術と文学、核の表象、医療と文学、先住民医療

〈所属学会〉 日本英文学会、日本英文学会関西支部、日本オセアニア学会、オーストラリア・ニュージーランド文学会、日本ヴァージニア・ウルフ協会、国際演劇協会、NZSA (New Zealand Studies Association, UK)

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

・『オーストラリア・ニュージーランド文学論集』三神和子編著、彩流社、2017年3月。(執筆担当章:第5章「ジャネット・フレーム——アルファベットの外縁から見た世界」pp.135-179.)

・『英語教育徹底リフレッシュ——グローバル化と21世紀型の教育』今尾康裕・岡田悠佑・小口一郎・早瀬尚子編、開拓社、2017年4月。(執筆担当章:「『英語』を脱構築する——オセアニア文学・文化の観点から——」 pp. 287~295.)

〈論文〉

・「マーシャル諸島から太平洋を越えて——Robert Barclay の小説と Kathy Jetnil-Kijiner の詩を中心に——」『ポストコロニアル・フォーメーションズ XII: 言語文化共同研究プロジ

ェクト 2016』大阪大学大学院言語文化研究科、2017年05月、pp. 27-40.

〈書評・論評・紹介〉

・「巻頭言」『南半球評論』Vol.33、2018年3月、p. 4.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・‘Environmental Arts and Literature Across the Pacific’, The 23rd annual conference of the New Zealand Studies Association (NZSA), University of Strasbourg, 7-10 July 2017.

・‘Lemi Ponifasio’s Planetary Imagination and Performing Arts in Oceania’, The Pacific Arts Association (PAA) Conference: ‘Making the Invisible Visible’, National University of Samoa, Apia, 27 Nov-1 Dec, 2017.

・「マーシャル諸島をめぐる小説と詩にみるコロニアリズムと環境の問題」、日本オセアニア学会関西地区例会、於同志社大学、2018年1月20日.

・「核実験から60年のクリスマス島の現在—キリバス民間人被ばく者の「語り」を通して—」、「共感と排他性」研究会、於京都大学、2018年2月17日.

・大阪大学21世紀懐徳堂 i-spot 講座：「港と都市—オーストラリアの先住民文化と移民文化」、2018年3月6日.

〈研究助成〉

・H25～29年度（2013～2017年度）日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（C）「オセアニアにおけるポストコロニアル文化形成と先住民/移民文学—環境・共同体・芸術—」（研究代表者：小杉世、課題番号：25370415）

・H26～29年度（2014～2017年度）日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（C）「環境汚染問題への英語圏モダニズムの文化的介入法を分析する」（研究代表者：山田雄三、研究分担者：小杉世、課題番号：26370316）

〈調査活動〉

・サモア独立国：ハワイ大学の夏季集中サモア語コース（マノアキャンパスとサモアのマノノ島での1か月半の研修）単位取得、先住民医療についてのインタビューほか

・キリバス共和国（クリスマス島）：英米による核実験が行われていた当時クリスマス島に在住していたキリバス人のコミュニティ、および除染に関する聞き取りの補足調査、現地での研究協力者との編集作業

・フィジー共和国：南太平洋大学図書館での資料収集ほか

・ニュージーランド：マオリ・南太平洋系の舞台芸術と視覚芸術の視察、NZアーカイブでの資料収集

[その他の活動]

〈共同研究〉国立民族学博物館共同研究員（研究課題：放射線汚染をめぐる「当事者性」に関する学際的研究、研究代表者：中原聖乃）

〈管理運営〉言文専攻教職員組合委員長（H29.4.～現在）、広報・社会貢献検討委員会委員長（H29.3まで）

〈学会活動〉 NZSA (New Zealand Studies Association, UK) Council member

〈社会貢献活動〉 大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-Spot 講座講師（講演題目は上記〈口頭発表・講演・学会報告〉参照）

## 里内 克巳 (SATOUCHI Katsumi) 准教授

### [教育活動]

〈研究科担当科目〉 比較言語文化論

〈共通教育担当科目〉 英語(Reading)、専門英語基礎

### [研究活動]

〈研究テーマ〉 アメリカ文学・文化（マーク・トウェイン、自伝、エスニック文学など）

〈所属学会〉 日本アメリカ文学会、日本英文学会、京大英文学会

### [研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・里内克巳著『多文化アメリカの萌芽——19～20 世紀転換期文学における人種・性・階級』（彩流社）2017 年 6 月、455+xxi 頁

〈論文〉

- ・「改訂される事実とフィクション——マーク・トウェインの未発表小説『それはどっちだったか』の来歴を探る」『言語文化研究』第 43 号 2017 年 3 月 pp. 77-96.

〈書評・論評・紹介〉

- ・「小野和人著『生きている道——ソローの非日常空間と宇宙』短評」『アメリカ文学研究』第 53 号（2017 年 3 月）pp. 124-25.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「分断されたアメリカを書く——T. ジェロニモ・ジョンソン『ブラッグズヴィルによろこそ』(2015)とマーク・トウェインの小説」：日本アメリカ文学会関西支部例会シンポジウム「アメリカ文学の新学期——21 世紀アメリカ小説教授法」講師（大阪市立大学）2017 年 10 月 7 日

〈研究助成〉

- ・科学研究補助金基盤研究 C「罪悪感の文学——マーク・トウェイン小説作品の自伝的基盤を探る」（2016 年 4 月～2020 年 3 月）研究課題番号 16K02490
- ・平成 28 年度 福原記念英米文学研究助成基金・出版助成(通称「福原賞」)(2017 年 3 月)

[その他の活動]

〈管理運営〉 マルチメディア外国語教育委員会委員長(2017 年度)

〈学会活動〉 日本アメリカ文学会本部編集委員会委員(～2017 年 3 月)、日本アメリカ文学会本部代議員（2017 年 4 月～）、日本アメリカ文学会関西支部副支部長（2017 年 4 月～）、日本英文学会関西支部支部長推薦理事（2015 年 4 月～）、日本マーク・トウェイン協会副会長（2015 年 4 月～2018 年 3 月）

〈社会貢献活動〉大阪大学の次世代型市民講座 2016 インターネットによる外国語学習へのお誘い「英語リーディング」担当講師(2016年11月)

**ディボフスキー・アレクサンドル (DYBOVSKY Alexander) 教授**

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語文化比較交流論、言語文化比較交流論特別研究

〈共通教育担当科目〉ロシア語初級I-II、ロシア語中級選択、国際コミュニケーション演習(ロシア語)

〈学部教育担当科目〉ロシア語 V b、ロシア語学講義I b.

[研究活動]

〈研究テーマ〉旧ソ連圏諸国における言語状況と言語政策、ロシアにおける日本学史、日本語教科書の政治学

〈所属学会〉日本ロシア文学会、日本ロシア文学会関西支部、JSSEES (The Japanese Society for Slavic and East European Studies)、日本ロシア語教育研究会その他

〈論文〉

- О некоторых сходствах и различиях ценностных ориентаций японской и южнокорейской молодежи 日本と韓国の若者の価値観の若干の異同について (L.L. Larina 共著) // Россия и АТР («Russia and the Pacific»), 2016. Vol. 3. Pp. 134 -156.
- О некоторых различиях ценностных ориентаций японских юношей и девушек. По материалам анкетирования в 2015-2016 гг. 日本の学生男女の価値観における若干の異同について—2015~16年のアンケート調査結果に基づいて—// A.ディボフスキー, 表象と文化 XIV, 言語文化共同研究プロジェクト 2016, 大阪大学言語文化研究科, 2017. Pp. 15-21.
- Дмитрий Матвеевич Позднеев (1865–1937) как японовед (1). Изучение вопросов японского страноведения и российско-японских отношений (Yu. D. Mikhailova 共著) // Studies in Language and Culture, 2017. Vol. 43. Pp. 207-233.
- Под сенью империй: Евгений Генрихович Спальвин (1972-1933) 帝国の庇護の下 : E.G. Спальвин (E.V. Yermakova 共著) // История отечественного японоведения в портретах (ポートレートで見るロシアの日本学史) М.: Наука – Восточная литература. С. 114-137 (モスクワ、2016年、12月 pp.114-137) .
- Японоведение в Практической восточной академии при Императорском обществе востоковедения (1910-1917) 王室東洋学会付属の東洋実践アカデミーにおける日本学 (1910-1917) // Studies in Language and Culture, 2018. Vol. 44. Pp. 243-262.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- О некоторых различиях ценностных ориентаций японских юношей и девушек. По материалам анкетирования в 2015-2016 гг. 日本の学生男女の価値観における若干の異同について—2015~16年のアンケート調査結果に基づいて— 日ロ研究会 2016年12月19日

(大阪大学大学院言語文化研究科)

- ・ Тема Японии в журналистике Дмитрия Матвеевича Позднеева (D.M.ポズドネエフのジャーナリズムにおける日本のテーマについて) XXXIII РОССИЙСКО-ЯПОНСКИЙ СИМПОЗИУМ УЧЕНЫХ ДВО РАН И РАЙОНА КАНСАЙ Владивосток, Институт истории, археологии и этнографии ДВО РАН (第33回ロシア科学アカデミー極東支部及び日本関西の研究者のシンポジウム) 2017年9月1日(ウラジオストク)
- ・ 王室東洋学会付属の東洋実践アカデミーにおける日本学(1910-1917) — D.M.ポズドネエフを中心に— ロシア・東欧学会・JSSEES、2017年合同研究大会 10月22日(一橋大学)
- ・ 日本で刊行された非母語話者用の日本語教材について 極東連邦大学地域国際研究学部・東洋学院日本講座 2018年、3月14日

〈研究助成〉

- ・ 「D.M.ポズドネエフとロシアにおける実践的日本学」基盤研究(C) 研究代表者
- ・ 「教科書の政治学」基盤研究(C) 研究分担者

〈調査活動〉

- ・ 共同研究として「ロ日中朝の若者の価値観について」の調査を実施した。
- ・ 極東連邦大学における日本語教材使用についての調査を実施した。

[その他の活動]

〈管理運営〉 学生支援委員、紀要委員会委員、ロシア語部会主任、言語文化比較交流論講座の講座代表など

〈学会活動〉 露語雑誌 «Историческая и социально-образовательная мысль» (歴史社会教育思想) 編集委員会委員) <http://www.hist-edu.ru/hist/pages/view/EditorialC>

〈社会貢献活動〉 奈良国際バレエ工房顧問

## 中 直一 (NAKA Naoichi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 研究発表演習、言語文化交流論、言語文化比較交流論特別研究

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習(ドイツ語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 比較文学・比較文化、日独言語文化交流史、ドイツ啓蒙主義

〈所属学会〉 日本比較文学会、日本独文学会、阪神ドイツ文学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 「初期鴉外の翻訳に見られる創作的付加について — 鴉外訳「新浦島」における主人公への感情移入 —」大阪大学大学院言語文化研究科『言語文化共同研究プロジェクト2016 言語文化の比較と交流 4』2017年5月(1-10頁)

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「江戸時代の日本人が見た異国」（国際理解ゼミナール）2017年6月1日（於：宝塚南口会館）
- 〈研究助成〉
- ・平成29年度～平成31年度科学研究費助成事業基盤研究（C）（一般）「異文化受容及び文化変容としての森鷗外初期翻訳作品の研究」（課題番号：17K02592）
- [その他の活動]
- 〈管理運営〉言語文化学会委員会委員長
- 〈学会活動〉日本比較文学会理事・事務局長、日本比較文学会関西支部幹事

### 西村 謙一 (NISHIMURA Kenichi) 准教授

- [教育活動]
- 〈研究科担当科目〉言語文化政策論
- 〈共通教育担当科目〉多文化コミュニケーション
- [研究活動]
- 〈研究テーマ〉東南アジア地域研究、フィリピン現代政治研究
- 〈所属学会〉日本国際政治学会、日本平和学会、日本比較政治学会、アジア政経学会、日本政治学会
- [研究業績]
- 〈単著・編著書・共著〉
- ・『新版国際関係論へのファーストステップ』法律文化社、2017年4月（分担執筆）
- 〈論文〉
- ・ Kenichi Nishimura, “People’s Participation in the Local Administration in the Philippines: An Empirical Study on the Local Development Council,” *Journal of Multicultural Education and Student Exchange*, Vol. 22, March 2018, pp. 77-88,
- ・ 西村謙一「解題：自治体における開発計画の決定過程」船津鶴代・籠谷和弘・永井史男編『東南アジアの地方自治サーヴェイ—比較のための解題とデータ—』（調査研究報告書）独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所、2018年3月、47-66頁。
- 〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・ Jun Kobayashi, Kenichi Nishimura, Hiroko Osaki, “Do Mayors’ Social Networks Increase Local Governments’ Performance?: Network Analyses of 300 Local Governments in the Philippines”, XXXVII Sunbelt Conference of the International Network for Social Network Analysis, Beijing Continental Grand Hotel, June 2, 2017
- ・ Masao Kikuchi, Kenichi Nishimura, “Where the Western Style Decentralization Reform meets the East (and West): Institutionalization of Local Government Bureaucracy and Performance of Local Government in the Philippines”, 3rd International Conference on Public Policy of International Public Policy Association, Lee Kuan Yew School of Public Policy of National University of

Singapore, June 29, 2017

- Kenichi Nishimura, “New Public Management in the Philippine Local Governments: The Mayors’ Political Behavior and their Idea of Local Governance”, The UP NCPAG 65th Anniversary International Conference Public Administration in Changing Times: New Norms and Sustainable Reforms, Marco Polo Hotel, Metro Manila, Philippines, August 25, 2017
- Kenichi Nishimura, “How People’s Participation is Realized in the Philippine Local Governments: An Empirical Study on the Local Development Council”, 2017 EROPA CONFERENCE, Grand International Parnas Hotel Seoul, September 14, 2017

〈研究助成〉

- 科学研究費補助金基盤研究(A) 課題番号：15H02600 平成 27 年度～平成 30 年度「東南アジア地方自治ガバナンスに関する住民意識調査—フィリピンとインドネシアの比較」研究代表者
- 科学研究費補助金基盤研究(C) 課題番号：15K02639 平成 27 年度～平成 29 年度「ICT 学習支援オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」(研究代表者：難波康治)、研究分担者
- 独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所 平成 29 年度「東南アジアの自治体サーベイ：比較のための解題とデータ作成」(研究代表者：船津鶴代)、研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉男女協働推進センター会議委員、ハラスメント相談室全学相談員、日韓共同理工系学部留学生受入れ方法検討 WG

〈社会貢献活動〉兵庫県立高校学校評議員、同 SGH 企画推進委員会委員長

## 平山 晃司 (HIRAYAMA Koji) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉比較言語文化論

〈共通教育担当科目〉ギリシャ語初級・中級、ラテン語初級・中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉西洋古典学、古代ギリシアの宗教、古代法の宗教性に関する研究

〈所属学会〉日本西洋古典学会

[研究業績]

〈論文〉

- 「古典期アテーナイの殺人裁判制度」『言語文化共同研究プロジェクト 2016 言語文化の比較と交流 4』11-16 頁、2017 年 5 月

〈研究助成〉

- 科学研究費補助金基盤研究(C) 2014～2016 年度「プルータルコス作品の実証的研究：文化・思想的背景に即した総合的再検討」研究分担者 (研究代表者：小池登)

[その他の活動]

〈管理運営〉古典語部会主任、財務会計委員、外国語教務委員、マルチメディア外国語教育委員、紀要編集委員、大学院教務委員、博士学位論文受理検討委員、部局過半数代表者  
(2017年12月～2018年3月)

**三浦 あゆみ (MIURA Ayumi) 准教授** (2017年9月着任以降～)

<http://sites.google.com/site/helontheweb/>

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉英語(Reading)、実践英語、専門英語基礎

[研究活動]

〈研究テーマ〉英語史(特に古英語・中英語)、史的統語論(特に動詞と構文交替)、(史的)語彙意味論、(史的)辞書学

〈所属学会〉岩崎研究会、英語史研究会、近代英語協会、日本英文学会(関西支部)、日本中世英語英文学会(西支部)、Angus McIntosh Centre for Historical Linguistics、ISLE (International Society for the Linguistics of English)

[研究業績]

〈論文〉

・ 'One hour hath orphan'd me, and widow'd me: A syntactic and semantic history of English verbs converted from human nouns' *English Studies* 99.2, 194-215. DOI: 10.1080/0013838X.2017.1418039 (2018年3月19日)

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・ 「精読から引き出される中英語の言語的特徴」 日本中世英語英文学会第33回全国大会企画シンポジウム「The Art of Reading Slowly - 中世英語テキストを精読する」(2017年12月3日)

[その他の活動]

〈学会活動〉日本中世英語英文学会大会準備委員長、日本中世英語英文学会西支部運営委員

**ヨコタ村上 孝之 (YOKOTA-MURAKAMI Takayuki) 准教授**

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~murakami>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉比較言語文化交流論

〈共通教育担当科目〉ロシア語中級、地域文化演習(ロシア語)

〈学部教育担当科目〉文学概論、ロシア文学講義、ロシア文学演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉比較文学・文化理論、セクシュアリティの系譜学的研究、現代日本コミックス・アニメ研究



〈所属学会〉日本比較文学学会、日本ロシア文学会、東大比較文学研究会、JSSEES、日本ロシア東欧学会、日本トルストイ学会、MLA, AAS, ENCLS, ICLA

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

共編書（共著） *Policing Literary Theory*, Leiden: Brill, Jan. 2018.

〈論文〉

- ・「李恢成のサハリン」 『文化の対話と翻訳・翻案』 タシケント国立東洋学大学 2018年 101-110頁
- ・「コスモポリタニズムの陥穽——ロシアにおける反ユダヤ主義の歴史から」 言語文化共同研究プロジェクト2017 『表象と文化 XIV』 大阪大学言語文化研究科 2017年6月 71-78頁

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「李恢成のサハリン」 西日本ロシア東欧研究者集会 2018年3月4日 大阪経済法科大学OUEL研究センター
- ・“Incest Taboo across the Boundaries: Negotiation of Brother-Sister Incest in Modern Japanese Literature Through Alignment with Subordinate Geography.” International Conference “The Question of Borders.” University of Balamand. Nov. 25, 2017.
- ・“Incest Taboo across the Boundaries: Negotiation of Brother-sister Incest in Modern Japanese Literature through Alignment with Subordinate Geography.” At EAJS Convention. University of Nova Lisbon. Sept. 1. 2017.
- ・“Post- and Metonymic Memory in *Message to Adolf*: On What Tezuka Reveals and Conceals to Undo Traumas.” At ENCLS Convention. University of Helsinki. Aug. 25, 2017.
- ・“Go Nagai’s Comic *Divine Comedy*: Devil-man’s Jihad against Satan and God.” At ACLA Convention. University of Utrecht. July 7, 2017.
- ・“Synchronicity across Historical and Geographical Boundaries in Hideo Levy’s *Summer Travel Diary of Henry Takeshi Lewitsky*.” At the International Conference “Chronotope Revisited.” Emigration Museum in Gdynia. Apr. 27, 2017.

〈研究助成〉

- ・科学研究費基盤（C）「ラトビア・イディッシュ文学の研究」

[その他の活動]

〈学会活動〉日本ロシア文学会理事・学会賞選考委員、日本ロシア東欧学会理事・学会賞選考委員、JSSEES理事・編集委員長

**【言語文化システム論講座】**

小川 敦 (OGAWA Atsushi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語文化システム論

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級、ドイツ語中級、国際教養 2（言語文化演習）

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ドイツ語圏の言語政策、ルクセンブルクにおける移民の言語的人権をめぐる言語教育政策

〈所属学会〉 日本独文学会、日本言語政策学会、阪神ドイツ文学会、大阪大学言語文化学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・ 境一三・治山純子・小川敦「第 12 章 危機に瀕するアルザス語 –バイリンガル教育によってもたらされるもの」、平高史也・木村護郎クリストフ（編）『多言語主義社会に向けて』、くろしお出版、2017 年
- ・ 小川敦「第 13 章 多言語社会ルクセンブルク –意味社会の到来と言語能力維持のための課題」、平高史也・木村護郎クリストフ（編）『多言語主義社会に向けて』、くろしお出版、2017 年

〈論文〉

- ・ 小川敦「社会経済的な不平等の再生産と言語教育 –ルクセンブルクの事例から」大阪大学言語文化研究科『言語社会共同プロジェクト 2016 ドイツ語をめぐる言語社会研究』4 号、2017 年、pp. 1-10
- ・ 小川敦「ルクセンブルクにおける移民の社会経済的不平等と教育制度」大阪大学言語文化研究科『言語文化共同プロジェクト 2016 批判的社会言語学のまなざし』、2017 年、pp. 15-24
- ・ 小川敦「(発表報告) ルクセンブルクにおけるドイツ語識字教育の問題点と施策」京都ドイツ語学研究会『Sprachwissenschaft Kyoto』、2017 年、pp. 86-88
- ・ 小川敦「多言語国家スイスと言語教育政策パスパルトゥー –ルクセンブルクとの比較において」大阪大学言語文化研究科『言語社会共同プロジェクト 2017 ドイツ語をめぐる言語社会研究』5 号、2018 年、pp.17-26

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ 小川敦・境一三・大澤麻里子「地域語アルザス語の位置づけと、独仏二言語教育（フランス・アルザスにおける複言語主義）」、言語教育エキスポ、2017 年 3 月（早稲田大学）
- ・ 境一三・小川敦「バーゼルにおける外国語教育のための共通基盤としてのパスパルトゥー」、言語教育エキスポ、2018 年 3 月（早稲田大学）
- ・ 大澤麻里子・小川敦・境一三「マルタの小学校における複言語教育 –その挑戦と課題」、日本言語政策学会、2017 年 6 月（関西大学）
- ・ 境一三・大澤麻里子・小川敦「マルタ共和国の言語教育について」、公開シンポジウム『日本の外国語教育を豊かにするには』、2017 年 7 月（慶應義塾大学）
- ・ 境一三・小川敦「スイス・バーゼル市州における外国語教育政策パスパルトゥーと日本で

の応用可能性」、合同シンポジウム『日本の外国語教育をより豊かにするには』（2018年 3月）

- ・小川敦「ルクセンブルクにおけるドイツ語識字教育の問題点と施策」、京都ドイツ語学研究会 第91回例会、2016年12月（京都大学）

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金（若手(B)）「ルクセンブルクにおける移民の言語的人権への配慮と言語教育政策」（2014-2016年度）研究代表者
- ・科学研究費補助金（基盤(C)）「ルクセンブルクにおける移民の子弟への識字教育支援 — 社会経済的不平等の解消のために」（2017-2020年）研究代表者

〈調査活動〉

- ・南チロル（イタリア）、マルタにおける複言語教育の実地調査（2017年3月）
- ・南チロル（イタリア）における言語教育政策の実地調査（2018年2月）
- ・ルクセンブルクにおける複言語教育政策、識字教育の実地調査（2017年3月、2018年3月）

[その他の活動]

〈管理運営〉外国語教務委員会委員、言語文化研究科ハラスメント小委員会委員長、言語文化研究科広報委員

〈学会活動〉日本独文学会ドイツ語学ゼミナール実行委員、同データベース委員会、阪神ドイツ文学会幹事

## 霜鳥 慶邦 (SHIMOTORI Yoshikuni) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語文化理論研究 A/B

〈共通教育担当科目〉英語(Reading)、実践英語、専門英語基礎

[研究活動]

〈研究テーマ〉第一次世界大戦の記憶の総合的研究、現代英語圏文学・文化

〈所属学会〉日本英文学会、日本英文学会関西支部、日本ロレンス協会、カルチュラル・スタディーズ学会、The Wilfred Owen Association、The Siegfried Sassoon Fellowship

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・『英語教育徹底リフレッシュ—グローバル化と 21 世紀型の教育』（共著）、開拓社、2017年。

〈論文〉

- ・‘A Long Road towards Healing and Reconciliation: Joseph Boyden’s *Three Day Road* and the Canadian Memory of the First World War’, *Studies in English Literature* 58, March 2017, pp. 39-56. [査読あり]

- ・「Wilfred Owen の詩的言語の今日的アクチュアリティをめぐって」、『交錯するレトリック—精神と身体、メタファーと認知』、言語文化共同研究プロジェクト 2016、2017 年 06 月、pp. 3-8. [査読なし]
- ・「21 世紀の *In Memoriam*—Sebastian Faulks, *Where My Heart Used to Beat* における記憶の美学」、『言語文化研究 44』、2018 年 3 月、pp. 55-68. [査読あり]  
〈翻訳・翻訳書〉
- ・『D. H. ロレンス書簡集 VIII 1917-1918』(共訳)、松柏社、2016 年.  
〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・「‘Ah, we’re all pagans here’—Sebastian Barry, *A Long Long Way* における第一次世界大戦の記憶のアイランド性、グローバル性、21 世紀性」、日本英文学会関西支部第 12 回大会、京都女子大学、2017 年 12 月.  
〈研究助成〉
- ・科学研究費補助金(基盤(C))「第一次世界大戦 100 周年のために: 現代イギリスにおける大戦の記憶の総合的研究」(2015-2018 年度) 研究代表者.  
〈調査活動〉
- ・第一次世界大戦の記憶に関する現地調査(アイランド、英国、2017 年 8 月 25 日~9 月 9 日).  
[その他の活動]  
〈管理運営〉大学院教務委員会  
〈学会活動〉日本ロレンス協会編集委員、言語文化学会委員  
〈社会貢献活動〉教員のための英語リフレッシュ講座 WG

## 津田 保夫 (TSUDA Yasuo) 教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~tsuda/>

### [教育活動]

〈研究科担当科目〉文化分析方法論、言語文化システム論特別研究

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級、ドイツ語中級、国際教養科目

### [研究活動]

〈研究テーマ〉18 世紀ドイツ文学、文学的人間学

〈所属学会〉日本独文学会、日本ヘルダー学会、阪神ドイツ文学会、日本ゲーテ協会

### [研究業績]

#### 〈論文〉

- ・「シラーにおける文学と無意識」(言語文化共同研究プロジェクト 2016『「文化」の解読(17)』2017 年 5 月)  
〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・「ゲーテ時代の文学における無意識の理論的背景」(日本ヘルダー学会シンポジウム<ゲー

テ時代における文学と無意識>関西学院大学、2016年12月)

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金・基盤研究 (C) 「18世紀ドイツにおける人間学的転回と近代文学の成立」

[その他の活動]

〈管理運営〉 図書委員長、全学教育推進機構兼任教員

〈学会活動〉 日本ヘルダー学会理事、阪神ドイツ文学会幹事

## 林 千宏 (HAYASHI Chihiro) 准教授 (2017年4月着任以降～)

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉 フランス語初級、フランス語中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉 16世紀フランス文学、書物の歴史

〈所属学会〉 日本フランス語フランス文学会、日本フランス語フランス文学会関西支部、日本ロンサール学会、大阪大学フランス語フランス文学研究会

[研究業績]

- ・〈共著〉『フランス語を読み解く鍵—第3巻』アシェット・ジャポン、2017
- ・〈紹介〉「仏検に挑戦しよう！ 初級から中級へ (5級～準2級)」『ふらんす』4月号、2017
- ・〈口頭発表〉「レミ・ベローにおける牧歌の詩学—La Bergerie (1565)を中心に」第82回大阪大学フランス語フランス文学研究会 (2018年3月3日)

〈研究助成〉

- ・科研費基盤 (B) 「創造的思考の基盤としての建築術」(研究代表者 桑木野幸司) 研究分担者

[その他の活動]

〈学会活動〉 日本フランス語フランス文学会編集委員、同学会語学教育委員、日本ロンサール学会幹事、同学会編集委員、大阪大学フランス語フランス文学研究会編集委員

〈社会貢献活動〉 文部科学省後援実用フランス語技能検定試験専門委員

## 福田 覚 (FUKUTA Satoshi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語文化理論研究

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級、ドイツ語中級、国際教養2

〈学部教育担当科目〉 言語文化システム論

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ドイツ語圏の詩学史・思想史・文学

〈所属学会〉 日本独文学会、同京都支部会、日本18世紀学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「J.E.シュレーゲル、ゴットシェートが接した「ソフォクレス」——受容の2つの局面から考える詩学史の物語論的再解釈」『ドイツ啓蒙主義研究 14』（大阪大学大学院言語文化研究科、2017年5月31日） S.55-76
- ・「悲劇の目的と情念をめぐる詩論のかたち——ニコライ、ゴットシェート、レッシングに見る作用詩学の物語論的再解釈にむけて」『希土』（希土同人社、2017年8月1日）第42号 S.2-32

〈研究助成〉

- ・「18世紀ドイツ詩学の物語論的再解釈—模倣説の「情動」を物語の変容から捉える試み—」、科学研究費補助金 基盤研究(C)

**森 祐司 (MORI Yuji) 教授**

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 公共文化形成論 A・B、言語文化システム論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 英語(Reading)、実践英語、英語選択、専門英語基礎、

[研究活動]

〈研究テーマ〉 アウトドア言語文化研究

〈所属学会〉 大阪大学言語文化学会

[その他の活動]

〈管理運営〉 外国語教務委員長

**我田 広之 (WAGATA Hiroyuki) 教授**

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 公共文化形成論、言語文化システム論特別研究

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級

〈学部教育担当科目〉 言語文化システム論

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ドイツ思想史、ドイツ文化史

〈所属学会〉 日本ドイツ学会、日本独文学会、阪神ドイツ文学会、大阪大学言語文化学会

[その他の活動]

〈管理運営〉 国際教育交流センター教授会構成員

〈学会活動〉 第15回日本独文学会賞日本語部門選考委員会委員長（兼運営委員）

**【現代超域文化論講座】**

**伊勢 芳夫 (ISE Yoshio) 教授**

[教育活動]

〈研究科担当科目〉現代超域文化論 A・B、現代超域文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉英語

[研究活動]

〈研究テーマ〉19世紀英国植民地小説と日本植民地小説、及び、イギリス、インド、そして日本の近代化の知の考古学的比較研究

〈所属学会〉日本キプリング協会、日本英文学会、日本英文学会関西支部

[研究業績]

〈共著〉

・『プロジェクト 2016 ポストコロニアル・フォーメーションズXII』(言語文化研究科、2017年5月)

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・シンポジウム(講師)、キプリング協会全国大会第20回、2018年3月18日、於 東京理科大学

〈研究助成〉

・2016-2018年度科学研究費補助金・基盤研究(C) (研究代表者)「19・20世紀のイギリスと日本における近代化言説の文学・文化論的比較研究」

〈調査活動〉

・イギリス領インドにおける植民地政策、及びイギリス人によるインド表象の構築と、日本の近代化と植民地政策に関する資料収集・分析

[その他の活動]

〈管理運営〉言語文化研究科・副研究科長(平成26年4月より)

〈学会活動〉日本英文学会関西支部評議員、日本キプリング協会会長

## 北村 卓 (KITAMURA Takashi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉現代社会ダイナミクス論、現代超域文化論特別研究(言語文化研究科)

〈共通教育担当科目〉フランス語(初級・中級・地域文化)

[研究活動]

〈研究テーマ〉フランス近代詩、日仏文化交流、現代消費文化論、フランス語教育法 など

〈所属学会〉日本フランス語フランス文学会、日本比較文学会、日本演劇学会、日本フランス語教育学会、e-Learning 教育学会、ボードレール研究会、シャンソン研究会 など

[研究業績]

〈編著〉

・『表象と文化 XIV』大阪大学言語文化研究科「言語文化共同プロジェクト2016」, 78P. (2017)

・『フランスを読み解く鍵 第2巻(改訂版)』アシェット・ジャポン, 83P. (2017)

〈共編著（語学参考書）〉

・『実用フランス語技能検定試験 2017 年度版 5 級 仏検公式ガイドブック』フランス語教育振興協会編, 「第 1 部」, pp.1-110. (2017)

・『フランスを読み解く鍵 第 3 巻』アシェット・ジャポン, 89P. (2017)

〈共著〉

・『舞台芸術を学ぶ』澤田肇編, 上智大学出版, 「メディア装置としての宝塚歌劇」, pp.116-143. (2018)

〈論文〉

・”Perspective on Baudelaire’s Reception in Japan from the Meiji Era to the Present”, *AmeriQuests* Vol.13, No 1, University of Vanderbilt, Nashville, pp.28-33. (2017)

・「宝塚歌劇とテロリズム—近年の演目をめぐって」, 『表象と文化 XIV』大阪大学言語文化研究科「言語文化共同プロジェクト 2016」, pp.43 -50. (2017)

・「ボードレールと日本の文学／文化」, 『びーぐる 詩の海へ』36 号, pp.30-34. (2017)

・”Baudelaire dans le monde littéraire japonais”, *L’Année Baudelaire no.21*, Honoré Champion, Paris, pp.199-206. (2017)

〈講演〉

・”La France de la Revue Takarazuka”, IV<sup>e</sup> Congrès régional de la Commission Asie-Pacifique, Fédération internationale des professeurs de français, (京都大学, 2017 年 9 月 22 日)

・「宝塚歌劇のフランス・イメージ戦略—『モン・パリ』『ベルばら』から現代まで」, 立命館大阪プロムナードセミナー「大阪・京都文化講座」(立命館大阪梅田キャンパス, 2017 年 10 月 30 日)

〈対談〉

・「ラフカディオ・ハーンとフランス文学」(富山大学 中島淑恵教授と), 2017 年度日本フランス語フランス文学会中部支部大会 (富山大学, 2017 年 12 月 2 日)

〈招待講義〉

・「文化外交としての宝塚歌劇—海外公演をめぐって」, 明治大学「情報コミュニケーション学—トランスナショナルコミュニケーションにおける文化の伝達」第 13 回 (2017 年 12 月 18 日)

〈研究助成〉

・科学研究費補助金 基盤研究 C (研究代表者) 課題番号 15K02456

「日本におけるボードレール受容の総合的研究」

[その他の活動]

〈管理運営〉(学内) 人権問題委員会 (副委員長) (部内) 人権問題委員会 (委員長)

〈国際交流〉部局間学術交流協定コンタクトパーソン (リトアニア共和国ヴィータウタス・マグヌス大学人文学部)

〈サークル顧問〉S F 研究会、フロイントコール



〈学会活動〉 日本フランス語フランス文学会副会長／同関西支部長（2017年12月まで）、  
e-Learning 教育学会幹事／同学会誌編集委員、大阪大学フランス語フランス文学会幹事／  
同学会誌編集委員  
〈社会貢献活動〉 公益財団法人日本フランス語教育振興協会副理事長、実用フランス語技能  
検定試験審査委員、  
西日本高校生フランス語コンクール審査委員長、公益財団法人神戸市演奏協会評議員選  
定委員会委員

### 木原 善彦 (KIHARA Yoshihiko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 現代超域文化論、現代超域文化論特別研究

〈共通教育担当科目〉 英語(Reading)、実践英語、専門英語基礎

[研究活動]

〈研究テーマ〉 現代アメリカ文学・文化、文体論

〈所属学会〉 日本英文学会、日本アメリカ文学会、京大英文学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・単著 『実験する小説たち——物語るとは別の仕方』 彩流社（2017年1月）
- ・共著 今尾康裕・岡田悠佑・小口一郎・早瀬尚子共編『英語教育徹底リフレッシュ』 開拓社(2017年4月)（「"There are seven words in this sentence."を日本語に訳すとどうなるか？——翻訳をめぐる誤解とそこにある可能性」[pp.258-265]）

〈翻訳・翻訳書〉

- ・ベン・ラーナー(Ben Lerner), 『10:04』(10:04), 白水社(2017年2月)

〈書評・論評・紹介〉

- ・「虚構における実験の漸進的横滑り」、『早稲田文学』2017年初夏号（第10次第18号）186-189頁，2017年5月

[その他の活動]

〈学会活動〉 日本英文学会編集委員、日本アメリカ文学会関西支部評議員および同編集委員、  
京大英文学会アルビオン選考委員会委員長

### 木村 茂雄 (KIMURA Shigeo) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 現代超域文化論、現代超域文化論特別研究

〈共通教育担当科目〉 英語(Reading)、実践英語、先端教養科目「知性への誘い」

〈学部教育担当科目〉 現代超域文化論（大学院共通科目）

[研究活動]

〈研究テーマ〉 英語圏文学、ポストコロニアル理論を中心とする文化理論

〈所属学会〉 日本英文学会、日本英文学会関西支部

[研究業績]

〈共著〉

・『文学批評への招待』 丹治愛・山田広昭編、放送大学教育振興会、2018年3月。

〈論文〉

・「ポストコロニアル批評 (1) ーペンによる帝国の逆襲」, 上掲『文学批評への招待』, pp. 227-242.

・「ポストコロニアル批評 (2) ーグローバル化時代における批評と文学」, 上掲『文学批評への招待』, pp. 243-260.

〈論評・紹介〉

・「はじめに」, 『言語文化共同研究プロジェクト2016 ポストコロニアル・フォーメーションズXII』 大阪大学大学院言語文化研究科, 2017年5月, pp. 1-3.

[その他の活動]

〈管理運営〉 言語文化研究科長

〈社会貢献活動〉 「教員のための英語リフレッシュ講座」 企画WG 座長

## 中村 綾乃 (NAKAMURA Ayano) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 現代超域文化論

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級、中級、国際教養科目

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ドイツ近現代史、ドイツ東アジア関係史、植民地研究

〈所属学会〉 日本西洋史学会、日本ドイツ学会、ドイツ現代史学会、阪神ドイツ文学会、日本独文学会ドイツ語教育部会

[研究業績]

〈論文〉

・「ドイツ領サモアにおける「人種」と社会層—混合婚をめぐる議論を起点として」 工藤章・田嶋信雄編『ドイツと東アジア 1890-1945年』(東京大学出版会、2017年2月)

・研究成果報告書 「ゾルフの植民地構想」『異文化交流と近代外交の変容—旧外交から新外交へ—』(課題番号 JP25285055)

〈書評・論評・紹介〉

・書評 小池求『20世紀初頭の清朝とドイツ—多元的国際環境下の双方向性』

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・口頭発表「第二次世界大戦後の上海在留ドイツ人社会」(第21回欧亜関係史研究会、成城大学、2017年11月12日)

- ・口頭発表「終戦と上海在留ドイツ人社会—二つの中国と二つのドイツの成立を背景として—」（大阪市立大学大学院文学研究科プロジェクト明治維新以来の日本と諸外国の関係）第5回研究会、大阪市立大学、2018年2月10日）

〈研究助成〉

- ・研究代表者 科学研究費補助金（若手B）「ドイツ帝国の南洋統治に関する研究」
- ・研究分担者 科学研究費補助金（基盤研究B）「異文化交流と近代外交の変容—旧外交から新外交へ—」
- ・研究分担者 科学研究費補助金（基盤研究B）「近現代ドイツ＝東アジア関係史（1890-1945年）の研究」

[その他の活動]

〈管理運営〉

- ・安全衛生委員会委員長
- ・豊中地区事業場安全衛生委員会委員

#### 宮崎 麻子 (MIYAZAKI Asako) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉現代超域文化論

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級、ドイツ語中級、国際教養科目

[研究活動]

〈研究テーマ〉ドイツ語圏文学、記憶の文化研究 (Cultural Memory Studies)

〈所属学会〉日本独文学会、阪神ドイツ文学会、日本ドイツ学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ Miyazaki, Asako: Post-DDR-Literatur. Politische Diskurse über die DDR in der Literatur seit 2000. In: Corina Caduff und Ulrike Vedder (Hg.): Gegenwart schreiben. Zur deutschsprachigen Literatur 2000-2015, Paderborn: Wilhelm Fink 2017, S. 27-36.
- ・宮崎麻子「隣り合わせの運命についての物語 — ゼーバルト『移民たち』の場合」言語文化共同プロジェクト2016「文化」の解説 (17)、2017年、21-30頁。
- 〈書評・論評・紹介〉
- ・宮崎麻子「宇宙からきた光の力 (アーティスト千葉麻十佳の作品について)」千葉麻十佳ウェブサイト上で日本語とドイツ語で公開 2017年5月。
- ・ Miyazaki, Asako: Sonntag; Verhör; Labyrinth; Übersetzung (断章と詩) 千葉麻十佳作品カタログへの寄稿、2017年5月。
- 〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・宮崎麻子「ポスト東ドイツ文学における想起の語り」大阪大学ドイツ文学会、2016年11月19日。

〈研究助成〉

- ・ 科研費: 若手研究 (B) 「1945 年以降のドイツ語文学における〈想起される言語〉」 研究期間: 2014 年 4 月 - 2018 年 3 月、代表者: 宮崎麻子

## 山本 佳樹 (YAMAMOTO Yoshiki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語文化メディア論、現代超域文化論特別研究

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級、ドイツ語中級、国際教養科目

〈学部教育担当科目〉 現代超域文化論、文化概論

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ドイツ映画、ドイツ文学

〈所属学会〉 Deutsche-Thomas-Mann-Gesellschaft、日本映画学会、日本映像学会、日本独文学会、オーストリア文学会、阪神ドイツ文学会、大阪大学ドイツ文学会、言語文化学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 「ケストナー児童文学の映画化にみる社会学—1950 年代と再統一後の 2 度のブームを中心に」、『「文化」の解説 (17) —移動と衝突の文化現象』 言語文化共同研究プロジェクト 2016 (大阪大学大学院言語文化研究科)、pp.31-40、2017 年 5 月

〈研究助成〉

- ・ ドイツ語圏における文学作品の映画化についての映画社会学的研究 (科学研究補助金・基盤研究 C、研究代表者、2016 年度～2018 年度)

[その他の活動]

〈管理運営〉 計画・評価委員会委員長、ドイツ語部会主任

〈学会活動〉 日本映画学会会長

## ヨコタ ジェリー (Gerry Yokota) 教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~gyokota/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ジェンダー論、現代超域文化論特別研究

〈共通教育担当科目〉 英語(Writing), 専門英語基礎, 人間教育講座 (現代の差別を考える: 女性学・男性学), G30 科目 (Traditional Performing Arts in Contemporary Japanese Society, Gender in Contemporary Japanese Popular Culture), 未来共生科目 (Advanced English for Multicultural Communication)

〈共通教育学習支援〉 FD セミナー

[研究活動]

〈研究テーマ〉 応用認知言語学, レトリック, メタファー, ジェンダー論, 能楽, アニメ

〈所属学会〉 International Gender and Language Association (IGALA), International Society for Language Studies (ISLS), Japan Association for Language Teaching (JALT)

[研究業績]

〈論文〉

- “Integration and the Power of Rhetorical Literacy.” *Proceedings of the Second Annual Japan in the World, the World in Japan Conference*. Otemae University Institute of International Education, pp. 3-19. 2018.3.
- “伝統文化、アイデンティティ、そしてダイバーシティ。” 英語教育徹底リフレッシュ：グローバル化と 21 世紀型の教育, 今尾康裕・岡田悠佑・小口一郎・早瀬尚子編. 開拓社. pp. 266-277. 2017.5.
- “The Thread of Life in the Rhetoric of Noh.” 言語文化共同研究プロジェクト 2016, pp. 81-92. <http://doi.org/10.18910/62082>

〈口頭発表〉

- “Bridging the Gap Between Ideal and Reality: Diversity Awareness in Action.” Tottori JALT, Tottori University, 2018.3.
- “Women Who Run with the Wolves and Other Fairy Tale Archetypes.” WELL2018 (Women Educators and Language Learners), National Women’s Education Center, 2018.3.
- “Bridging the Gap Between Ideal and Reality: Diversity Awareness in Action.” Kyoto JALT, Campus Plaza Kyoto, 2018.1.
- “伝統の息吹：能からアニメまで。” 国際文化会館 (東京), 2017.12.
- “Bridging the Gap Between Ideal and Reality: Diversity Awareness in Action.” Nara JALT, 2017.12.
- “Archetypal Literacy in Theory and Practice: *Kurozuka*.” 言語文化レトリック研究会, 2017.11.
- “‘We Crossed a Bridge and It Trembled’: Metaphor and Archetype in Refugee Narratives.” 1st International Symposium in Applied Humanities: Relational Studies: Refugees from Disaster. Tsukuba University, 2017.11.
- “Time Travelers: Visions of Commerce in Traditional Japanese Culture.” PGL2017 (Peace as a Global Language), Kobe Gakuin University, 2017.11.
- “An Ounce of Prevention Is Worth a Pound of Cure: Enhance Your Professional Qualifications with Diversity Awareness.” The Business and Intercultural Communication Conference, Kansai University, 2017.7.
- “国際交流のメディア：能からアニメまで。” 大阪大学公開講座, 2017.8.
- “Dreams of an Internet Peace Corps: Building Bridges, Connecting Communities with Traditional and Popular Culture.” ISLS2017 (International Society for Language Studies), 2017.6.
- “Gender, Multimodality, Intersectionality.” JALT PanSIG 2017, Akita International University. 2017.5.
- “Communiversality: Fostering Dialogue about Violence against Women.” WELL2017 (Women

Educators and Language Learners), National Women's Education Center, 2017.2.

• “Integration and the Power of Rhetorical Literacy.” Featured Speaker, Japan in the World, the World in Japan. Otemae University, 2016.12.

• “National Education Policy and Identity Formation.” JALT2016, WINC Nagoya, 2016.11.

[その他の活動]

〈管理運営〉 公開講座 WG、『未来共生』編集委員会委員、未来共生国際連携 WG

〈学会活動〉 JALT GALE-SIG (Gender Awareness in Language Education Special Interest Group) 役員

〈社会貢献活動〉 公開講座講師、阪なり会（大阪大学女性研究者の会）会長

### 【言語コミュニケーション論講座】

植田 晃次 (UEDA Kozi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 社会言語学研究（副題：社会言語学あるいは社会言語学研究の諸問題 [2016・2017年度とも]）

〈共通教育担当科目〉 朝鮮語初級、朝鮮語中級、国際コミュニケーション演習（朝鮮語）、地域言語文化演習（朝鮮語）

[研究活動]

〈研究テーマ〉 日本における朝鮮語教育史、在外朝鮮民族の言語をめぐる諸問題、朝鮮語に対する言語政策

〈所属学会〉 朝鮮学会、多言語社会研究会、朝鮮史研究会、韓国社会言語学会

[研究業績]

〈論文〉

• 植田晃次（廉 Chol・崔健 翻訳）「朝鮮語新聞から見た語彙規範の問題点」、池光哲 編『規範化研究（『中国朝鮮語文』叢書 20）』民族出版社、2016.12、254-264 頁（原文朝鮮語）[植田晃次（2000）「1990年代中国の朝鮮語規範化と語彙規範の問題点」『言語文化研究』26、大阪大学言語文化部・大学院言語文化研究科が翻訳掲載された「朝鮮語新聞から見た語彙規範の問題点」『中国朝鮮語文』2000年第3期、中国朝鮮語文雑誌社（原文朝鮮語）が『中国朝鮮語文』叢書に収録されたもの]

• 「日本近代朝鮮語教育史の視点から見た山本正誠(まさのぶ)と朝鮮語 — 人物史と著書を通して —」『言語文化研究』43、大阪大学大学院言語文化研究科、2017.3、9-27 頁

• 「多言語表示と言語規範 — 観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」を例に —」『批判的社会言語学のまなざし（言語文化共同研究プロジェクト 2016）』大阪大学大学院言語文化研究科、2017.5、3-14 頁

〈口頭発表・講演・学会報告〉

• 「日本近代朝鮮語教育史の視点から見た笹山章と朝鮮語 — 人物史と著書を通して —」

(第5回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム、/2017年8月19日、於延辺大学東部教学楼第11会場)

- ・「近代日本人と着脱可能なアイテムとしての朝鮮語 — 日本近代朝鮮語教育史試考(二) —」(第68回朝鮮学会大会、2017年10月8日、於早稲田大学11号館903)

〈研究助成〉2017~2019年度(予定):科学研究費補助金基盤研究(C)「漢字文化を基礎とした中期朝鮮語文法および語彙表の開発」(研究課題番号:17K02962、研究分担者)

[その他の活動]

〈管理運営〉

- ・言語文化研究科:マルチメディア外国語教育委員会委員長(2016年度)、紀要編集委員会委員長(2017年度)、部会主任会議・財務会計・外国語教務・マルチメディア外国語教育・紀要編集の各委員会委員(2016・2017年度)、大学院教務・博士学位論文受理検討・コンテンツ管理・情報セキュリティ・安全衛生の各委員会委員(2016年度)、図書委員会委員(2017年度)、言語文化B棟改修工事検討ワーキングメンバー(2018年1月~)
- ・全学教育推進機構:兼任教員(2012年度~)
- ・全学:博士教育課程リーディングプログラム「未来共生イノベーター博士課程プログラム」プログラム担当者(2012年10月~)

〈学会活動〉第5回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム第11会場(教育一般)座長、学会誌等査読(延辺大学外国語学院日本学研究所論文編集委員会、朝鮮語教育学会)、感謝牌受賞(中国・延辺大学日本学研究所)

**榎本 剛士 (ENOMOTO Takeshi) 准教授** (2017年4月着任以降~)

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉英語(Reading)、実践英語、専門英語基礎

[研究活動]

〈研究テーマ〉語用論、記号論、言語人類学、実践論・出来事論としての言語研究、言語イデオロギーを含むメタ・コミュニケーション研究

〈所属学会〉社会言語科学会、日本英語教育史学会、International Pragmatics Association、American Anthropological Association、American Association for Applied Linguistics

[研究業績]

〈論文〉

- ・「ここに書かれていることは、嘘です: フレーム、あるいは『ことばの使用』をめぐるこの身近な大問題」『日本語学』第36巻第4号、104-114頁、2017年4月。
- 〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・「英語教育の歴史性を『教室』から考える」、日本英語教育史学会第267回研究例会、2018年3月。
- ・「コンテクスト化の複雑性・階層性と第二言語習得—『クロノトポス』と『スケール』概

念を SLA 研究に組み込むための問題提起」、拡大 NJ 研究会、2017 年 8 月.

- “Stance-taking, scale-jumping and the dialogic emergence of learnables in an EFL classroom,” presented in the panel “Stance-taking in educational contexts” (chaired by Aisling O’Boyle), The 15th International Pragmatics Conference, 2017 年 7 月.
- 「英語の授業における『英語』の多声的テキスト化について」、「言語と人間」研究会 6 月例会、2017 年 6 月.
- 「英語教育批判の批判的考察から始める、社会言語実践的存在としての人間の探究」、談話研究会、2017 年 4 月.

〈研究助成〉

- 科学研究費補助金若手研究 (B)、「コミュニケーション論に基づく学校英語教育のエスノグラフィー」(研究代表者、平成 28 年度～平成 30 年度、課題番号：16K17415)

〈調査活動〉

- 上記研究助成にかかる中学校英語授業のフィールドワーク (2017 年 4 月 18 日～2018 年 3 月 20 日、週一回訪問)

[その他の活動]

〈管理運営〉 設備・施設マネジメント委員会委員、英語部会会議議長 (2017 年度後期)

〈社会貢献活動〉 大阪大学次世代型市民講座 2017 「英語 3」講師

## 王 周明(WANG Zhouming) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語運用理論研究

〈共通教育担当科目〉 中国語初級、中国語中級、国際コミュニケーション演習 (中国語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 中国語歴史文法、方言文法

〈所属学会〉 日本中国語学会、日本中国近世語学会、中日理論言語学研究会

[研究業績]

〈論文〉

- 「中国明清期の「没有」比較文と「不比」文」『言語文化共同研究プロジェクト 2016・時空と認知の言語学VI』 pp.1-10、大阪大学大学院言語文化研究科、2017 年 5 月

〈調査活動〉

- 中国福建省、浙江省にてフィールドワーク実施 (2017 年 8～9 月、2018 年 3 月)

[その他の活動]

〈管理運営〉 言語文化研究科：紀要編集委員会委員・マルチメディア外国語教育委員会委員 (2016・2017 年度)、安全衛生委員会委員・広報・社会貢献検討委員会委員 (2017 年度)、言語文化 B 棟改修工事検討ワーキングメンバー (2018 年 1 月～)

〈学会活動〉 学術誌『言語文化研究』の査読



〈社会貢献活動〉 放送大学面接授業講師

## 大前 智美 (OMAE Tomomi) 准教授

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ドイツ語教育、e-Learning、アクティブラーニング、ICT 活用

〈所属学会〉 日本独文学会ドイツ語教育部会、日本ドイツ語情報処理学会、e-Learning 教育学会、外国語メディア教育学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 大前智美, 「WebOCMnext の音声認識機能の活用」『ドイツ語情報処理研究第 26 号』, p p.59~67, 2016 年 12 月発行
- ・ 簡珮鈴, 立川真紀絵, 大前智美, 「ダイナミック教材作成システムを搭載した LMS-WebOCMnext-」2017PC Conference 論文集, pp.11~14, 2017 年 8 月発行
- ・ 大前智美, 「ドイツ語リーディング・発音学習のためのダイナミック教材の開発—次世代型市民講座 2016 における実践—」, 『ドイツ語情報処理研究 27 号』, pp.29~39, 2017 年 12 月発行

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ 簡珮鈴, 立川真紀絵, 大前智美, 細谷行輝, 「WebOCMnext の音声認識機能の開発と活用」, e-Learning 教育学会第 15 回大会, 2017 年 3 月
- ・ 簡珮鈴, 立川真紀絵, 大前智美, 「ダイナミック教材作成システムを搭載した LMS - WebOCMnext-」, 2017 PC Conference , 2017 年 8 月

〈研究助成〉

- ・ 基盤研究 C, 「外国語授業支援のためのアプリ・ソフト類のアーカイブ作成および教具・ツール類の開発」, 研究分担者, 2014 年~2016 年
- ・ 基盤研究 C, 「小中高大連携を見据えた外国語教育と ICT の接点を探る研究ならびにアーカイブの開発」, 研究分担者, 2017 年~2019 年

〈学会活動〉 e-Learning 教育学会理事、事務局、学会誌編集委員

〈社会貢献活動〉 次世代型市民講座 2017

## 佐藤 彰 (SATO Akira) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 社会言語学研究

〈共通教育担当科目〉 英語 (Reading)、実践英語、専門英語基礎

[研究活動]

〈研究テーマ〉 談話分析、社会言語学、語用論

〈所属学会〉 International Pragmatics Association、社会言語科学会、日本英語学会、言語文化

学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「米紙英文記事とその公式和訳はどう違うのかー災害報道が伝えるストーリー・価値観を検証するー」大阪大学大学院言語文化研究科『言語文化共同研究プロジェクト 2016：相互行為分析03ーメディアと談話ー』2017年5月、pp.1-10.
- ・「特集・現代社会におけるメディア研究」『社会言語科学』第20巻第1号、2017年9月、pp.1-4. (秦かおり氏、岡本能里子氏、佐藤広英氏と共著)

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「災害報道の社会言語学的分析：英米メディアが見た東日本大震災」日本英語学会第34回研究大会、金沢大学、2016年11月12日.
- ・「原発事故対応従事者は戦うヒーローか：英米メディアと国内メディアによる災害報道の対照研究」第4回談話研究会、大阪大学、2016年12月21日.
- ・“How Western/Japanese media construct ‘realities’: Different stories of the nuclear events in Japan”, The 15th International Pragmatics Conference, Belfast Waterfront (Northern Ireland, U.K.) 2017年7月19日.
- ・「原発事故を報道する米紙の和訳記事は『大本営発表』だったか：ウォール・ストリート・ジャーナル日本版における原発事故関連報道の批判的談話分析」第49回メディアとことば研究会、大阪大学、2017年9月15日.
- ・”How did the Japanese media use quotations in their coverage of the Fukushima disaster?”, Georgetown University Round Table on Languages and Linguistics 2018, Georgetown University (Washington DC, U.S.A) 2018年3月10日.

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金基盤研究(C) (研究代表者：佐藤彰 研究課題：災害報道の談話分析的  
研究)

[その他の活動]

〈管理運営〉会計(英語部会)、部会会計(英語部会)、人権問題委員会委員(言語コミュニケーション論講座)、キャンパス・ハラスメント問題小委員会委員(言語コミュニケーション論講座)、大学院教務委員会(言語コミュニケーション論講座)、日本学術振興会特別研究員模擬面接審査員

〈学会活動〉社会言語科学会発表賞委員会審査委員、社会言語科学会学会誌編集委員会外部委員、メディアとことば研究会役員.

- ・『社会言語科学』特集号「現代社会におけるメディア研究」担当エディター.
- ・公開特別シンポジウム「現代メディアの談話分析：災害をどう伝えるか」企画責任者、日本英語学会第34回研究大会、金沢大学、2016年11月12日.
- ・Panel “How to construct ‘memory’: Stories of the nuclear events from Hiroshima to Fukushima”,

企画責任者（秦かおり氏とともに）、The 15th International Pragmatics Conference, Belfast Waterfront (Northern Ireland, U.K.) 2017年7月19日.

- Panel “Narratives in social contexts: Schiffrin’s legacy in Japanese discourse analysis”, 企画責任者, Georgetown University Round Table on Languages and Linguistics 2018, Georgetown University (Washington DC, U.S.A) 2018年3月10日

### 瀧田 恵巳 (TAKITA Emi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語コミュニケーション論、言語運用理論研究

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級、ドイツ語中級、国際教養科目

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ダイクシス研究、方向表現を中心とする意味論

〈所属学会〉 日本独文学会、九州大学独文学会、西日本独文学会

[研究業績]

〈論文〉

- 「人称と言語オルガノン・モデル」『言語文化研究』第43号 pp. 97-118. 大阪大学言語文化研究科. 2017年3月.
- 「コソアの意味記述と人称 「一人称」と「二人称」は「三人称」か?」『言語文化共同研究プロジェクト2016・時空と認知の言語学VI』大阪大学大学院言語文化研究科. 2017年5月.
- 〈口頭発表・講演・学会報告〉
- 「Origoと言語オルガノン・モデル」(日本独文学会西日本支部研究発表会, 2016年11月26日, 於長崎大学)
- 「二つのOrigoと視点」(日本独文学会2017年秋季研究発表会, 2017年9月30日, 於広島大学)

〈研究助成〉

- 科学研究費補助金基盤研究(C)「Origoと視点によるダイクシス理論の研究」(研究代表者: 瀧田恵巳) 平成25~29年度, 課題番号25370430

[その他の活動]

〈管理運営〉 大学院図書委員会委員、学内附属図書館総合図書館運営委員会委員、紀要編集委員会委員、ハラスメント相談員

### 竹蓋 順子 (TAKEFUTA Junko) 准教授

<http://www.junko-takefuta.jp/>

[研究活動]

〈研究テーマ〉 外国語 e-Learning 教材の開発およびその効果の検証

〈所属学会〉 大学英語教育学会、外国語教育メディア学会、関東甲信越英語教育学会、全国英語教育学会、日本教育工学会、e-Learning 教育学会

[研究業績]

〈教材〉

- ・ Listen to Me! 聴解力養成用 CALL 教材『English around the World』, 科研 課題番号 16H03440 による 2016 年度研究成果物 (コースウェア執筆分担)

〈研究助成〉

- ・ 文部科学省科学研究費補助金基盤研究 (B) 「語彙学習の概念を変える 3 次元語彙力診断テストと発表語彙学習システムの開発」 (研究代表者: 竹蓋順子) 2016~2019 年度、課題番号 16H03076
- ・ 文部科学省科学研究費補助金基盤研究 (B) 「グローバル社会の多様な英語に対応する聴解力を養成するための CALL 教材の開発」 (研究代表者: 高橋秀夫) 2016~2019 年度、課題番号 16H03440
- ・ 文部科学省科学研究費補助金基盤研究 (C) 「HTML5 を使用したマルチプラットフォーム対応 CALL システムの開発と試用」 (研究代表者: 土肥充) 2015~2018 年度、課題番号 15K01057

[その他の活動]

〈管理運営〉 サイバーメディアセンター評価委員会委員、CALL システムワーキング委員、サイバーメディアセンター広報委員会委員、全額支援会議委員、ハラスメント部局相談員  
〈学会活動〉 外国語教育メディア学会 (LET) 関西支部運営委員、e-Learning 教育学会学会誌編集委員、e-Learning 教育学会学会誌編集委員事務局委員

## 立川 真紀絵 (TACHIKAWA Makie) 講師

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉 情報探索入門

[研究活動]

〈研究テーマ〉 異文化間コミュニケーション研究、アイデンティティ研究

〈所属学会〉 社会言語科学会、日本語教育学会、専門日本語教育学会、e-Learning 教育学会、日本ドイツ語情報処理学会、日本教育工学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 立川真紀絵・簡珮鈴 (2017) 「e-Learning による次世代型市民講座の運営と課題-大規模講座との比較による受講者限定型講座のシステムの分析-」『ドイツ語情報処理研究』27 号、日本ドイツ語情報処理学会、pp.41-53.
- ・ 簡珮鈴・立川真紀絵・大前智美 (2017) 「ダイナミック教材作成システムを搭載した LMS-

- WebOCMnext-」『2017 PC カンファレンス論文集』コンピュータ利用学会、pp.11-14.
- ・簡珮鈴・立川真紀絵 (2018)「参加型学習に向けた日本語 e-Learning 教材の提案 -教材の世界に溶け込む試み-」『e-Learning 教育研究 第 12 巻』e-Learning 教育学会、pp.23-30  
〈口頭発表・講演・学会報告〉
  - ・立川真紀絵・簡珮鈴「e-Learning におけるアクティブラーニングの実践-外国語の次世代型市民講座におけるダイナミック教材作成システムの運用から-」日本教育工学会第 33 回全国大会(島根大学)、ポスター発表(講演論文集; pp.415-416)、2017/9/16.
  - ・簡珮鈴・立川真紀絵・大前智美「ダイナミック教材作成システムを搭載した LMS-WebOCMnext-」2017 PC カンファレンス(慶應義塾大学)、ポスター発表、2017/8/6.
  - ・細谷行輝・立川真紀絵「Active Learning の勧め」日本ドイツ語情報処理学会研究発表会(跡見学園女子大学)、2017/12/16.
  - ・立川真紀絵「異文化間におけるビジネスコミュニケーション-大学生のキャリア形成の観点から-」安徽理工大学(中国)外国語学院講演会『言語と文化』
- [その他の活動]
- 〈学会活動〉 e-Learning 教育学会理事・事務局
  - 〈社会貢献活動〉 大阪大学次世代型市民講座 2017

## 秦 かおり (HATA Kaori) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 社会言語学研究 B、言語コミュニケーション論特別研究 AB、研究発表演習

〈共通教育担当科目〉 英語(Reading)、実践英語、専門英語基礎

[研究活動]

〈研究テーマ〉 社会言語学、相互行為論、コミュニケーション学、ナラティブ研究。特に、排除、差別問題。移民としての在英邦人女性を取り巻く社会的文化的環境の調査

〈所属学会〉 社会言語科学会、国際語用論学会、日本英語学会、日本社会学会、日本語用論学会、日本マス・コミュニケーション学会

[研究業績]

〈共著〉

- ・『出産・子育てのナラティブ分析—日本人女性の声にみる生き方と社会の形』、(共著：秦 かおり・岡本多香子・井出里咲子)、大阪大学出版会、2017 年 1 月。

〈編著書〉

- ・『コミュニケーションを枠づける—参与・関与の不均衡と多様性』、(編著：片岡邦好・池田佳子・秦かおり) くろしお出版、2017 年 2 月。
- ・『話しことばへのアプローチ—創発的・学際的談話研究への新たなる挑戦—』、(編著：鈴木亮子・秦かおり・横森大輔) ひつじ書房、2017 年 12 月。

〈論文〉

- ・「対立と調和の図式—参与者間不均衡是正のためのディスコース」(単著)、『コミュニケーションを枠づける—参与・関与の不均衡と多様性』、片岡邦好・池田佳子・秦かおり(編)、くろしお出版、pp. 131-154、2017年2月。
- ・「参与・関与の不均衡を考える」『コミュニケーションを枠づける—参与・関与の不均衡と多様性』(共著：片岡邦好・池田佳子・秦かおり)、片岡邦好・池田佳子・秦かおり(編)、くろしお出版、pp. 1-26、2017年2月。
- ・「それは排除か協調か—語りの動的仕組みを考える」、『<不思議>に満ちた言葉の世界』(上)(単著)、高見健一・行田 勇・大野英樹編、開拓社、pp. 130-134、2017年3月。
- ・「震災を物語る—日英マス・メディアにおける「記憶」の表象とイデオロギー—」(単著)『相互行為研究(3)：メディアと談話』言語文化共同研究プロジェクト 2016、pp. 11-21、2017年5月。
- ・「Beyond the Gap—コミュニケーションによる「異なり」はどう処理されるのか—」(共著：砂川千穂・菊地浩平・秦かおり)、社会言語科学会第40回大会発表論文集、pp. 222-231、2017年9月。
- ・「特集・現代社会におけるメディア研究」『社会言語科学』第20巻第1号、2017年9月、pp.1-4。(共著：秦かおり・佐藤彰・岡本能里子・佐藤広英)
- ・『『みんな同じがみんないい』を解読する—ナラティブにみる不一致調整機能についての一考察』(単著)、『話しことばへのアプローチ—創発的・学際的談話研究への新たな挑戦—』、鈴木亮子・秦かおり・横森大輔(編)、ひつじ書房、pp. 219-250、2017年12月。
- ・「第2部「話しことばの言語学」実践編」(共著：片岡邦好・秦かおり)『話しことばへのアプローチ—創発的・学際的談話研究への新たな挑戦—』、鈴木亮子・秦かおり・横森大輔(編)、ひつじ書房、pp. 107-111、2017年12月。

〈口頭発表〉

- ・「被災者証言集における「記憶」としての震災：日英マス・メディアによる再文脈化の対照研究」(シンポジウム)日本英語学会、於：金沢大学、2016年11月12日。
- ・「記憶」の再文脈化とマス・メディア：日英ドキュメンタリー番組にみる東日本大震災の描き方」談話研究会、於：大阪大学、2016年12月21日。
- ・「インタビュー・ナラティブにみる排除・調整・共感の達成：在英日本人移民が語るEU離脱騒動から「共生」を考える」『ナラティブ(語り)研究の社会貢献を考える』ラウンドテーブル、於：龍谷大学、2017年3月9日。
- ・「本当は不均衡な私たち—ママ友の語りにもみる参与の創発性と多層性—」『創発的参与構造の解明と類型化』公開研究会、於：国立国語研究所、2017年3月16日。
- ・「The Pragmatics of “Bonding” in Cross-Cultural Encounters: East Asian Perspectives”(パネルを企画・発表：井出里咲子と共に)、IPrA、Belfast Waterfront Centre、Northern Ireland、2017年7月18日。

- “Confronting imbalances in interaction: A case study of interview narratives of Japanese women living in the UK in the intercultural situations” (with Takako Okamoto)、IPrA、Belfast Waterfront Centre、Northern Ireland、2017年7月18日.
- ‘How to construct “memory”’: Stories of the nuclear events from Hiroshima to Fukushima” (パネルを企画・発表：佐藤彰と共に)、IPrA、Belfast Waterfront Centre、Northern Ireland、2017年7月19日.
- “Memories” in Hiroshima and Fukushima: A Case Study of Recontextualisation by the Japanese Mass Media”、IPrA、Belfast Waterfront Centre、Northern Ireland、2017年7月19日.
- 「結び直される記憶：メディアにおけるナラティブ性と HIROSHIMA の集合的記憶」第49回メディアとことば研究会、於：大阪大学、2017年9月16日.
- 「Beyond the Gap —コミュニケーションによる「異なり」はどう処理されるのか—」(共同発表：砂川千穂・菊地浩平と共に) 第40回社会言語科学会研究大会、於：関西大学、2017年9月17日.
- 「揺れ動くアイデンティティ—相互行為の場における排除と同化の語用論—」動的語用論研究会、於：京都工芸繊維大学、2017年10月1日.
- 「タスク達成場面における共同行為—折り紙場面を事例に—」第20回日本語用論学会大会、於：京都工芸繊維大学、2017年12月16日.
- 「談話実験における言語行動と非言語行動の相関関係—ビッグ・ストーリー確認作業を事例に—」(共同発表：砂川千穂・菊地浩平と共に) 第41回社会言語科学会研究大会、於：東洋大学 2018年3月10日.

〈ポスター発表〉

- 「被災者証言番組における「記憶」としての震災：日英マス・メディアにみる再文脈化の背景を探って」大阪大学第1回豊中地区文理研究交流会、於：大阪大学、2016年12月20日.
- 「英国の危機、在英邦人移民の危機 — Brexit が起こした波紋を「語り」から考える」大阪大学第2回豊中地区研究交流会、於：大阪大学、2018年1月10日.
- 「日常会話コーパスにみる大人と子供の相互行為：参与構造の創発と動的プロセスをみる」シンポジウム「日常会話コーパス」III、於：国立国語研究所、2018年3月19日.

〈研究助成〉

- 科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 課題番号：15K12876、平成27～29年度「生きやすさ」の談話分析：移民としての在英邦人女性調査からみる多文化共生への提言」研究代表者
- 科学研究費補助金基盤研究(C) 課題番号：15K03907、平成27～29年度「IT化時代における家族実践：世代間コミュニケーションの実態解明」研究分担者
- 科学研究費補助金基盤研究(C) 課題番号：25370499、平成25～28年度「言語的・非言語的「不均衡」から見る社会的実践の諸相」研究分担者
- 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立国語研究所 「領域指定型」共同研究プロジ

エクト、平成 28 年～30 年度「会話における創発的参与構造の解明と類型化」研究分担者

- ・龍谷大学国際文化研究所、平成 29～32 年度「異文化理解と多文化共生—人口減少社会を見据えたミクロ・マクロからのアプローチ」プロジェクト、共同研究者

〈調査活動〉

- ・海外インタビュー調査、補習授業校、日本語勉強会、日本語勉強互助会「どんぐり」参与観察調査（2017 年 8 月 9 日～9 月 11 日、英国ロンドン）

[その他の活動]

〈管理運営〉キャンパス・ハラスメント問題小委員会委員長、カリキュラム・ワーキング、カリキュラム検討チーム、新規開設科目教材開発チーム、教務委員

〈学会活動〉社会言語科学会編集委員、同メディア特集号担当委員、書評担当委員、同査読担当、日本英語学会大会委員、日本マス・コミュニケーション学会査読担当、カルチュラル・スタディーズ学会査読担当

## 細谷 行輝 (HOSOYA Yukiteru) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語技術研究、言語コミュニケーション論特別研究、人文学と情報講義（文学研究科）

〈共通教育担当科目〉地域言語文化演習（ドイツ語）

[研究活動]

〈研究テーマ〉ドイツ語教育、意味論、意味形態論、CALL システム研究、e-Learning システム研究、

自動翻訳研究、その他

〈所属学会〉日本独文学会、e-Learning 教育学会、日本ドイツ語情報処理学会、冠詞研究会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・細谷行輝・鈴木右文・土屋智行共編、『アクティブラーニングを強力にサポートする WebOCMnext—九州大学基幹教育言語文化科目「学術英語 1 CALL-A/B」受講案内書 2017 年度版』、(成美堂)(共著)、2017.2

〈論文〉

- ・杉浦謙介・細谷行輝、「WebOCMnext の音声認識機能を用いた発音練習—初級ドイツ語授業での実践とアンケート調査—」、『ドイツ語情報処理研究』26、47-57、日本ドイツ語情報処理学会、2016 年 11 月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・細谷行輝・立川真紀絵、「Active Learning の勧め」、日本ドイツ語情報処理学会、跡見学園女子大学



文京キャンパス、2017年12月16日

- ・細谷行輝、「言語教育とインターネット（アクティブ・ラーニング）」台湾、高雄第一科技大学、

2017年11月 [招待基調講演]

- ・細谷行輝、「アクティブ・ラーニングと外国語教育」、台湾、文藻外語大学、2017年11月 [招待講演]

- ・細谷行輝、「次世代型 e-Learning 教育・学習環境 WebOCMnext の可能性」、中国、安徽理工大学、

2017年6月 [招待講演]

- ・細谷行輝、「日本的なるもの」、中国、安徽理工大学、2017年6月 [招待講演]

- ・簡珮鈴・立川真紀絵・大前智美・細谷行輝、「WebOCMnext の音声認識機能の開発と活用」、第15回 e-Learning 教育学会、沖縄大学、2017年3月18日 [特別発表]

- ・細谷行輝・立川真紀絵、「最先端の e-Learning 学習環境について (デモあり)」、

日本ドイツ語情報処理学会、跡見学園女子大学文京キャンパス、2016年12月18日

[その他の活動]

〈管理運営〉サイバーメディアセンターマルチメディア言語教育研究部門

〈学会活動〉e-Learning 教育学会会長、日本ドイツ語情報処理学会会長、冠詞研究会代表

〈社会貢献活動〉次世代型市民講座2017の実施（池田市、大阪市の市民対象）

## 村岡 貴子 (MURAOKA Takako) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語技術研究、言語コミュニケーション論

〈共通教育担当科目〉専門日本語、現代の差別を考える—男性学・女性学—

[研究活動]

〈研究テーマ〉日本語教育学、専門日本語教育研究、アカデミック・ライティング教育研究

〈所属学会〉日本語教育学会、専門日本語教育学会、社会言語科学会、異文化間教育学会、

日本文体論学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・村岡貴子・堀一成・坂尻彰宏（2018）「大阪大学における日本語ライティング教育の実践—2017年度の留学生および一般大学院生を対象とした各授業の報告から—」『大阪大学国際教育交流センター研究論集多文化社会と留学生交流』第22号，pp.23-32

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・村岡貴子（2017）「東アジアを中心とした専門日本語教育の実践拡大と研究開発の可能性—研究者間の連携・協働の強化を目指して—」パネルディスカッション、第18回東アジア日本語・日本文化フォーラム特別企画『日本語教育を核とする異文化相互理解教育・国

際連携教育の開発に向けて』2017年2月4日、九州大学、招待

- ・太田亨・佐藤尚子・菊池和徳・藤田清士・村岡貴子(2017)「論理的思考力涵養のための方策と課題：事例分析から」パネルセッション「学部段階の日本語教育と理工系専門教育との効果的な連携—数学教育・物理教育とのコラボ授業事例から—」『日本語教育学会秋季大会予稿集』2017年11月25日、新潟大学
- ・劉偉・村岡貴子(2018)「日本語学習者のアカデミック・ライティングにおける引用に関する調査・分析」『専門日本語教育学会第20回研究討論会誌』pp.26-27、2018年3月2日、名古屋大学
- ・太田亨・安龍洙・村岡貴子(2018)「韓国人工系学部入学前予備教育生の「論理的文章」に関する意識について—第18期日韓プログラム生へのアンケート結果より—」『第20回専門日本語教育学会研究討論会誌』pp.28-29、2018年3月2日、名古屋大学

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金基盤研究(B) 課題番号：26284072 平成26年度～平成29年度「大学・大学院でのキャリア形成に資する在学段階別日本語ライティング教育の開発と評価」研究代表者
- ・科学研究費補助金基盤研究(C) 課題番号：15K02639 平成27年度～平成29年度「ICT学習支援オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」研究分担者
- ・科学研究費補助金基盤研究(B) 課題番号：16H03434 平成28年度～平成30年度「非漢字圏アジア留学生のための日本語教育と理工系専門教育の高大接続を目指す協働研究」研究分担者
- ・科学研究費補助金基盤研究(C) 課題番号：17K02878 平成29年度～平成31年度「アカデミック・ライティング技術の習得を目指したピア・レスポンスの実証的研究」研究分担者
- ・科学研究費補助金基盤研究(A) 課題番号：15H01884 平成27年度～平成30年度「読解コーパスの構築による日本語学習者の読解過程の実証的研究」連携研究者

[その他の活動]

〈管理運営〉教育課程委員会委員、全学教育推進機構兼任教員、国際教育交流センター副センター長、ASEANキャンパス設置WGメンバー

〈学会活動〉専門日本語教育学会代表理事、日本語教育学会調査研究推進委員会委員、日本語教育学会審査・運営協力員

## 山下 仁 (YAMASHITA Hitoshi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉社会言語学研究

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習(ドイツ語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 社会言語学、ドイツ語学

〈所属学会〉 日本独文学会、阪神ドイツ文学会、文法理論研究会、多言語社会研究会、多言語化現象研究会、IVG（国際ゲルマニスト会議）、GAL（応用言語学会）

[研究業績]

〈共著〉

・ „Soziale Distanz im deutschen und japanischen Verkaufsgespräch“ Akio Ogawa (Hrsg.):  
*Raumerfassung- Deutsch im Kontrast*, Stauffenburg Verlag, 123-138. 2017年

・ „Höflichkeit und ihre Kehrseite“ Claus Ehrhardt / Eva Neuland (Hrsg.): *Sprachliche Höflichkeit*  
*Historische, aktuelle und künftige Perspektiven*, Narr Attempto Verlag, 121-133. 2017年

〈論文〉

・ 『『排外主義の高まりをどうとらえるか』の覚書』言語文化共同研究プロジェクト2016 25  
-34、2017年

・ 排外主義をどうとらえるか(宮島喬、志水 宏吉、河村 倫哉らとの共著) 未来共生学  
14-53. 2018年

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・ 「東アジアにおける多文化共生のための諸条件」(2016年11月17日、中国、浙江省、浙江  
財経大学「アジアの多文化共生と平和」講座にて日本語で口頭発表・招待講演)

・ 「現代社会における断絶のコミュニケーション」(2017年12月16日、大阪市立大学で開  
催された阪神ドイツ文学会第224回研究発表会にて高田博行,川島隆,田中慎 とともに発  
表)

[その他の活動]

〈管理運営〉 学生生活委員、言語コミュニケーション論講座代表、CALLシステムワーキン  
グ委員

〈その他〉 博士教育課程リーディングプログラム「未来共生意のベーター博士課程プログラ  
ム」プログラム担当選抜審査主査(2012年10月～)

〈学会活動〉 日本独文学会常任理事、日本独文学会機関誌語学部門編集委員長、多言語社会  
研究会編集委員、多言語化現象運営委員、冠詞研究会事務局

## 義永 美央子 (YOSHINAGA Mioko) 教授

<http://mioko-yoshinaga.jpn.org>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語コミュニケーション論、言語コミュニケーション論特別研究

〈共通教育担当科目〉 専門日本語

[研究活動]

〈研究テーマ〉 日本語教育学、応用言語学

〈所属学会〉 日本語教育学会、異文化間教育学会、社会言語科学会、言語文化教育研究学 会

[研究業績]

〈論文〉

- ・義永美央子 (2017a) まなぶ・つなぐ・つくる—ポスト・コミュニカティブアプローチの時代における教師の役割—『リテラシーズ』20号 (くろしお出版)、pp.24-40、招待
- ・義永美央子 (2017b) 「日本語教育におけるピア・ラーニングの意義と課題—メタ・エスノグラフィーによる質的研究の統合—」柳町智治・岡田みさを (編)『インタラクションと学習』ひつじ書房、pp. 149-173、招待
- ・義永美央子 (2018) 「自律学習支援のための日本語学習記録における教師コメントの分析」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』22号、pp.33-46、査読無

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・義永美央子 (2016) 「第二言語教育における口頭運用能力の枠組み—伝達能力・複言語/複文化能力・相互行為能力を中心に—」(清水崇文・岩田夏穂・渡部倫子とのパネルディスカッション「第二言語習得における口頭運用能力とは—理論・実践・評価—」における話題提供)、第27回第二言語習得研究会全国大会 2016年12月17日、於九州大学伊都キャンパス、招待
- ・義永美央子・渡部倫子・本田弘之・岩田一成 (2017) 「言語教師の成長とその支援—日本語学校へのインタビュー調査から考える—」言語文化教育研究会第3回年次大会・フォーラム発表、2017年2月25日、於関西学院大学、査読有
- ・義永美央子 (2018) 「オンライン自律学習支援サイト「OU 日本語ひろば」の構想について」、義永美央子、第11回大阪大学専門日本語教育研究協議会、2018年2月16日、於大阪大学吹田キャンパス、査読無

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金基盤研究 (B) 課題番号: 16H03435 平成28年度～平成30年度「多文化共生社会におけるホストパーソン・支援者の接触支援スキルと意識の変容」、研究代表者
- ・科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 課題番号: 16K13243 平成28年度～平成30年度「ライフコースの視点からみた日本語教師の成長とキャリア支援プログラムの開発」、研究代表者
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C) 課題番号: 15K02639 平成27年度～平成29年度「ICT学習支援オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」、研究分担者
- ・科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 課題番号: 16K13241 平成28年度～平成30年度「外国人の保護者のための学校配布プリントの研究」、研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉 学生生活委員会委員、学生支援小委員会委員、学生生活調査専門委員、国際教育交流センター教務委員長

〈学会活動〉日本語教育学会大会委員、社会言語科学会査読協力者、言語文化教育研究学会  
査読協力者・年次大会実行委員、第二言語習得研究会査読委員

### **渡邊 伸治 (WATANABE Shinji) 教授**

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語運用理論研究

〈共通教育担当科目〉外国語科目ドイツ語, 国際教養2 (ドイツ語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉言語学, ダイクシス, 視点

〈所属学会〉日本独文学会, IVG (国際ゲルマニスト会議)

[研究業績]

〈論文〉

・「ヨーロッパ言語の中の英語 -ドイツ語の視点から-」『英語教育徹底リフレッシュグローバル化と21世紀型の教育』pp.242-248, 2017年04月

[その他の活動]

〈管理運営〉全学学生生活委員会委員, 学生支援委員会委員長, コミュニケーション論講座  
代表

### **【言語文化教育論講座】**

### **今尾 康裕 (IMAO Yasuhiro) 准教授**

<https://sites.google.com/site/casualconcj/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉応用言語学研究, 研究発表演習

〈共通教育担当科目〉英語(Reading), 専門英語基礎

〈学部教育担当科目〉英語学演習 v

[研究活動]

〈研究テーマ〉言語テスト, 英語教育, アカデミックライティング, テキスト分析ツール開  
発

〈所属学会〉日本言語テスト学会, 全国英語教育学会, 中部地区英語教育学会, 外国語教育  
メディア学会, 英語コーパス学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

・「CasualConc でのアカデミック英語分析—単語検索からデータの視覚化まで—」, 水本篤  
(編)『ICT を活用した英語アカデミック・ライティング指導: 支援ツールの開発と実践』,  
(pp. 31-61). 金星堂.

・今尾康裕・岡田悠佑・小ロー郎・早瀬尚子 (共編)『英語教育徹底リフレッシュ: グローバ

ル化と 21 世紀型の教育』, 開拓社..

- ・「生徒の英語力を適切に評価するには」今尾康裕・岡田悠佑・小口一郎・早瀬尚子 (共編) 『英語教育徹底リフレッシュ: グローバル化と 21 世紀型の教育』, (pp. 66–77). 開拓社.
- ・「関西大学バイリンガルエッセイコーパス (KUBEC) の可能性を探る—分析のための下準備のプロセスとデータの概略—」, 山西博之 (編) 『大規模バイリンガルエッセイコーパスの構築とデータ分析のための各種システムの開発』, (pp. 82–118). 溪水社.

〈論文〉

- ・ Mizumoto, A., Hamatani, S., & Imao, Y. Applying the Bundle–Move Connection Approach to the Development of an Online Writing Support Tool for Research Articles. *Language Learning*, 67(4).
- ・「依存文法解析に基づく共起語の抽出の可能性—Stanford CoreNLP を利用して—」, 『テキストマイニングとデジタルニューマニティーズ』 (統計数理研究所共同研究レポート 386), pp. 45–54.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「構文解析を利用した英語コロケーション分析の可能性」, 言語と統計 2017, 統計数理研究所. 2017 年 3 月 27 日.
- ・「日本の英語学習者によるエッセイでの文レベルの接続表現を探る—日本語エッセイ・英語母語話者によるエッセイと比較して—」, 言語と統計 2018, 統計数理研究所. 2018 年 3 月 29 日.
- ・石井雄隆・福田純也・天野修一・今尾康裕・亙理陽一「学習者コーパス研究の知見に基づいた中高生作文データベースの構築」, 全国英語教育学会第 43 回島根研究大会, 島根大学. 2017 年 8 月 19 日.

〈研究助成〉

- ・分野別特徴語の共起情報を基にした用例表現検索ツールの開発と論文作成支援への応用 (科学研究補助金・基盤研究 C, 研究代表者, 2015~2017 年度)

〈コンピューターアプリケーション開発〉

- ・CasualConc 2.0 (テキスト分析ツール)
- ・CasualTranscriber 2.5 (文字おこし補助ツール)
- ・CasualTagger 1.0 (テキストタグ付け補助ツール)
- ・CasualExtractor 1.0 (テキスト処理ツール)

[その他の活動]

〈学会活動〉 日本言語テスト学会 Web 公開委員委員長, Asian Association for Language Assessment, コミュニケーション担当理事

〈社会貢献活動〉「教員のための英語リフレッシュ講座」(大阪大学大学院言語文化研究科公開講座) 講師

岩居 弘樹 (IWAI Hiroki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 応用マルチメディア論, 言語文化教育論特別研究

〈リーディング大学院担当科目〉 多言語演習 I

〈共通教育担当科目〉 地域言語文化演習 (ドイツ語), ドイツ語初級 I, II, 世界は今—サンフランシスコから, 世界の事情を英語で学ぶ, 世界の事情を英語で学ぶ中級編

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ICT を活用した外国語教授法, 教育工学

〈所属学会〉 日本教育工学会, 外国語教育メディア学会, 日本デジタル教科書学会, 日本独文学会, 日本独文学会ドイツ語教育部会, 教育システム情報学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・岩居弘樹「ドイツ語授業でのアクティブラーニング」ドイツ語教育 21 号, pp.17-22, 2017 年 3 月
- ・岩居弘樹 山口和也他 4 名「日米間遠隔授業におけるスマートフォン対応授業支援アプリの利用による双方向コミュニケーションの向上」, 大阪大学高等教育研究 05, pp.57-62, 2017 年 3 月
- ・岩居弘樹「外国語学習とアクティブラーニング」『英語教育徹底リフレッシュ グローバル化と 21 世紀型の教育』(今尾・岡田他編), pp.80-92, 2017 年 4 月
- ・岩居弘樹「ICT が可能にした新しい外国語学習 (「声」中心の学び方)」情報処理学会論文誌: 教育とコンピューター3 (招待論文), pp.8-17, 2017 年 10 月
- ・小島理永 岩居弘樹「ダンス創作過程における表現力向上にむけた ICT 活用」大阪大学高等教育研究 06, pp.15-25, 2018 年 3 月.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・岩居弘樹「ビデオ撮影プロジェクト + 外国語学習— ドイツ語初級クラスと多言語演習の例 —」大学・高校実践ソリューションセミナー, 2016 年 11 月 22 日, 内田洋行大阪支店
- ・岩居弘樹「ICT を活用した外国語アクティブラーニングの一例」信州大学 FD セミナー, 2016 年 12 月 8 日, 信州大学松本キャンパス
- ・岩居弘樹「普通の授業+ICT 多言語演習の紹介」教育 IT ソリューション EXPO 2017 専門セミナー, 2017 年 5 月 17 日, 東京ビッグサイト
- ・岩居弘樹「学生の携帯端末を授業に活用する方法」外国語教育メディア学会関西支部春季大会ワークショップ, 2017 年 6 月 10 日, 近畿大学
- ・岩居弘樹「子どもの力を引き出す ICT 活用」兵庫県放送・視聴覚教育研究大会 (基調講演), 2017 年 8 月 2 日, 神戸市立湊小学校
- ・岩居弘樹「今までできなかったことをやってみる」関西教育 ICT 展 講演・シンポジウム, 2017 年 8 月 4 日, インテックス大阪
- ・岩居弘樹「ネイティブスピーカーとデジタルデバイスを活用した多言語演習の試み」日本

デジタル教科書学会第六回年次大会, 2017年8月20日, 青山学院大学

- ・岩居弘樹「多言語演習に見る「学びの風景」」未来の先生展 講演, 2017年8月26日, 武蔵野大学
- ・岩居弘樹「先生, あなたは主役じゃありませんよ」NPO 法人 iTeachers Academy 設立イベント 講演, 2017年10月9日, 聖徳学園中学・高等学校
- ・岩居弘樹「ICT 教材開発とその運用」電気通信大学 FD 講習会 講演, 2017年11月17日, 電気通信大学
- ・岩居弘樹「ICT やアクティブラーニングが外国語教育にもたらす可能性」慶應義塾一貫教育セミナー 講演・ワークショップ, 2017年12月26日, 慶應義塾普通部
- ・Makiko Oyama, Hiroki Iwai “Assessment of D-Learning Following the Active Learning approach with Telepresence Robots” The 16th Annual Hawaii International Conference on Education, 2018年1月6日, The Hilton Hawaiian Village Waikiki Beach Resort, in Honolulu, Hawaii  
〈研究助成〉
- ・科研費基盤研究(C), 音声認識とビデオ撮影を活用した ICT 支援外国語協調学習の実践と評価法の研究, 研究代表者.
- ・科研費基盤研究(C), リズム系ダンスにおける ICT 機器を活用した表現力育成プログラムの開発, 研究分担者.

[その他の活動]

〈学会活動〉ドイツ語教員養成・研修講座講師

〈社会貢献活動〉英語リフレッシュ講座講師

## 大谷 晋也 (OTANI Shinya) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語文化教育論 A・B

〈共通教育担当科目〉総合日本語、専門日本語、多文化コミュニケーション (日本語)、多文化コミュニケーションセミナー、International Communication Seminar (Japanese)

〈学部教育担当科目〉言語文化教育論 (F)・(G)

[研究活動]

〈研究テーマ〉多文化・グローバル教育としての異言語 (日本語) 教育、言語教育政策、外国人医療支援に関する諸問題、日本古典文学データベース

〈所属学会〉日本語教育学会

[研究業績]

〈翻刻・校訂〉

- ・平安文学ライブラリー『竹取物語』(日本文学 Web 図書館 (古典ライブラリー)) 2018.1 (単著・共編)
- ・平安文学ライブラリー『伊勢物語』(日本文学 Web 図書館 (古典ライブラリー)) 2018.1



(単著・共編)

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「日本の医療の不思議 ～保健・医療 文化の違い～」外国人市民への保健・医療サポートセミナー2018 (医療事務連絡会 (箕面市等)) 2018.1 (共同でコーディネーター)

〈研究助成〉

- ・「EPA看護師候補者のためのオンライン漢字語彙教材の開発」科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究代表者
- ・「ICT学習支援オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉国際教育交流センター教授会構成員 (専任)、外国語学部教授会構成員、全学教育推進機構会議委員、全学教育推進機構カリキュラム委員会委員、全学教育推進機構TA活用専門委員会委員、情報化推進会議委員、ODINS 運用部会委員、情報セキュリティ連絡会委員、超域イノベーション博士課程プログラム担当教員、未来共生イノベーター博士課程プログラム担当教員

〈社会貢献活動〉みのお外国人医療サポートネット運営委員、医療事務連絡会 (箕面市等) 委員

## 岡田 悠佑 (OKADA Yusuke) 准教授

<https://sites.google.com/site/liloarise2690/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉応用言語学研究

〈共通教育担当科目〉英語(Reading)、実践英語

[研究活動]

〈研究テーマ〉相互行為能力、応用会話分析

〈所属学会〉American Association for Applied Linguistics、社会言語科学会、日本教育工学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・今尾康裕・岡田悠佑・小口一郎・早瀬尚子(編) (2017) 英語教育徹底リフレッシュ-グローバル化と21世紀型の教育 開拓社.

〈論文〉

- ・Ishino M., & Okada, Y. (2017). Constructing students' deontic status by use of alternative recognitionals for student reference. *Classroom Discourse*. doi: 10.1080/19463014.2017.1407947 (査読有)
- ・岡田悠佑 (2017) 教師の相互行為能力を可視化する一会話分析による授業実践へのアプローチ. 今尾康裕・岡田悠佑・小口一郎・早瀬尚子(編著) 『英語教育徹底リフレッシュ

-グローバル化と 21 世紀型の教育』 開拓社. pp. 39-52

- ・岡田悠佑 (2017). “Confusing, contrary, uncertain and purely nonsensical” –タカタエアバッグ問題に関する米公聴会での対立会話– 大阪大学大学院言語文化研究科 (編), 相互行為研究 3 –メディアと談話– 言語文化研究科共同プロジェクト 2016, 21–30. (査読無)
- ・岡田悠佑 (2017). 直接生徒逼迫性の連鎖的再格付け—米公聴会における応答追求手続きの会話分析—. 社会言語科学会第 40 回研究発表大会論文集, 44–47. (査読無)
- ・岡田悠佑 (2016). 相互行為能力の発達を解き明かす：縦断的会話分析の方法と意義. *Fundamentals Review* (電子情報通信学会 基礎・境界ソサイエティ研究誌), 9, 304–317. (招待・解説論文)
- ・岡田悠佑 (2016). “Evasion, uncertainty”としての”yes” –タカタ・エアバッグ不具合問題をめぐる米公聴会とメディア報道の微視的分析–. 社会言語科学会第 38 回研究発表大会論文集, 191–193. (査読無)  
(口頭発表・講演・学会報告)
- ・岡田悠佑 (2018 年 1 月). マスメディアの談話心理学. 第 2 回大阪大学豊中地区研究交流会. 大阪大学. 大阪.
- ・岡田悠佑 (2017 年 12 月). 大阪大学における外国語教育 ～英語カリキュラム改革を中心に～. 神戸大学大学教育推進機構国際コミュニケーションセンター・第 24 回外国語教育セミナー. 神戸大学. 兵庫. (招待講演)
- ・岡田悠佑 (2017 年 10 月). 大阪大学における (ディープ) アクティブ・ラーニング型英語授業 ～プロジェクト発信型英語を例に～. 平成 29 年度国立七大学外国語教育連絡協議会合同シンポジウム. 北海道大学. 北海道.
- ・岡田悠佑 (2017 年 9 月). 平成 31 年度からの 新カリキュラムにおける 英語教育. 平成 29 年度大阪大学 FD フォーラム. 大阪大学. 大阪.
- ・岡田悠佑 (2017 年 9 月). 直接生徒逼迫性の連鎖的再格付け—米公聴会における応答追求手続きの会話分析—. 社会言語科学会第 40 回研究発表大会.
- ・岡田悠佑 (2017 年 2 月). “Confusing, contrary, uncertain and purely nonsensical” –タカタ製エアバッグ問題に関する 米公聴会での対立会話–放送文化基金助成シンポジウム「メディア を介した対立会話」. 大阪.
- ・Okada, Y. (2016, November). “Do you have any questions?” *Discursive construction of unsuitability in an L2 job interview*. JALT. Nagota.
- ・岡田悠佑 (2016 年 10 月). 利害の絡んだ相互行為と英語教育：応用会話分析入門. 第 4 回英語教育における質的研究コンソーシアム. 東洋英和女学院大学. 東京. (招待講演)
- ・岡田悠佑 (2016 年 10 月). 反感の技法と政治的意義：タカタエアバッグ問題米公聴会での情意スタンスとメディア報道. 日本質的心理学会第 13 回全国大会. 名古屋市立大学. 愛知.

〈研究助成〉

- ・平成 27 年度放送文化基金助成 (人文社会・文化) 「タカタリコール問題に関する米公聴会とそのニュース報道の談話分析」

[その他の活動]

〈管理運営〉教育改革支援室室員 (全学)、入試改革検討小委員会英語ワーキングメンバー (全学)、マルチリンガル教育センター設置検討専門部会委員、教員のための英語リフレッシュ講座ワーキングメンバー、研究企画推進委員会委員、国際交流委員会委員、紀要編集委員会委員、言語文化学会委員

〈社会貢献活動〉 Applied Linguistics 査読委員、The Modern Language Journal 査読委員、The University of Queensland 博士論文外部査読委員、教員のための英語リフレッシュ講座講師、大阪大学 FD フォーラム講師、神戸大学大学教育推進機構国際コミュニケーションセンター・外国語教育セミナー講師、英語教育における質的研究コンソーシアム講師

## 郡 史郎 (KORI Shiro) 教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~caris/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉博士前期課程：言語表現生態論 (音声表現の多様性とプロソディー)、博士後期課程：言語文化教育論特別研究

〈共通教育担当科目〉国際コミュニケーション演習 (イタリア語)

〈学部教育担当科目〉イタリア語 3 (1 年次)、イタリア語 14 (2 年次)、イタリア語特別演習 (3-4 年次)、イタリア語学講義 (3-4 年次)

[研究活動]

〈研究テーマ〉音声コミュニケーション

〈所属学会〉日本音声学会、日本語学会、社会言語科学会、日本音響学会、日本方言研究会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・郡史郎「アクセント・イントネーション」真田信治 (監修) 『関西弁事典』 (共著) ひつじ書房.

〈論文〉

- ・郡史郎「じょうずな朗読とイントネーション」『音声言語の研究 11』 (大阪大学) 25-36.
- ・郡史郎「間投助詞のイントネーションと間投助詞的イントネーション—使用例の検討と、尻上がりイントネーション、半疑問イントネーションの考察—」『言語文化研究』 (大阪大学) 44, 283-306.
- ・郡史郎「感動詞の高さの動きから見る日本語の会話表現のイントネーションの特徴」『大阪大学言語文化学』 27, 69-81.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・郡史郎「(1)イントネーションで多義性が解消できる多義文と、そうでない多義文について；(2)じょうずな朗読とイントネーション・間の取り方・緩急について」近畿音声言語研究会，関西学院大学大阪梅田キャンパス，2016年11月5日。
- ・郡史郎「口調とイントネーション」近畿音声言語研究会，関西学院大学大阪梅田キャンパス，2017年3月4日。
- ・郡史郎「(1)発話のタイミングとリズム；(2)日本語の会話表現のイントネーション—感動詞の音の上がり下がりの特徴を中心にして—」近畿音声言語研究会，キャンパスプラザ京都，2017年8月5日。
- ・郡史郎「口調とイントネーション(2)」近畿音声言語研究会，西宮市大学交流センター，2017年12月2日。
- ・郡史郎「自分の考えに同意するかどうかをたずねる質問に使う「アクセントなし疑問型上昇調」について—「じゃない」から「とびはね音調」まで—」東京音声研究会，日本大学文理学部，2017年12月16日。
- ・郡史郎「口調とイントネーション(3)」近畿音声言語研究会，西宮市大学交流センター，2018年1月6日。
- ・郡史郎「話し声からわかること—声とイメージの関係を知りコミュニケーション力をUPするために—」Handai-Asahi 中之島塾，大阪大学中之島センター，2018年3月3日。

[その他の活動]

〈管理運営〉言語文化教育論講座代表（～2017年3月），イタリア語部会主任，学生支援委員（2017年4月～），外国語教務委員，紀要編集委員会委員（～2017年3月は委員長），マルチメディア外国語教育委員会委員

**小口 一郎 (KOGUCHI Ichiro) 准教授**

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語文化教育論、言語表現生態論

〈共通教育担当科目〉英語(Reading)、実践英語、専門英語基礎

〈学部教育担当科目〉言語文化教育論 (J)

[研究活動]

〈研究テーマ〉イギリス・ロマン主義、アカデミックライティング

〈所属学会〉イギリス・ロマン派学会、日本英文学会、日本英文学会中部支部、言語文化学会、大阪大学英文学会、名古屋大学英文学会、e-Learning 教育学会、大学英語教育学会 (JACET)

[研究業績]

〈共編著〉

- ・『英語教育徹底リフレッシュ——グローバル化と21世紀型の教育』開拓社、2017.4

〈論文〉

- ・“Contact with Materiality: Wordsworth’s Alps and Thoreau’s Ktaadn.”『言語文化研究』第 44 号、2018 年 3 月  
〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・「「Wordsworth に環境感受性を探る（その 2）― 切られる木をいたむ」」（講演）第 36 回イギリス・ロマン派講座、早稲田大学教育学部、2017 年 7 月 1 日。  
〈研究助成〉
- ・「イギリス・ロマン主義におけるテキストと物質的環境の研究」科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C）（一般））15K02301（研究代表者）
- ・「トランスアトランティック・エコロジー ― 環境文学／思想の還流と変容」科学研究費助成事業（学術研究費補助金）（基盤研究（C）（一般））15H03189（研究分担者）
- [その他の活動]
- 〈管理運営〉言語文化教育論講座代表、全学教育推進機構兼任、教育情報化 WG 委員、CALL システム WG 委員、公開講座運営委員、国立 7 大学 CU 委員会委員
- 〈学会活動〉イギリス・ロマン派学会会長・理事、e-Learning 教育学会編集委員長・理事、名古屋大学英文学会編集委員
- 〈公開講座〉
- 「ネット上のフリー教材を活用する ― 発音から TED トーク、発信型活動まで ―」平成 29 年度大阪大学大学院言語文化研究科公開講座「教員のための英語リフレッシュ講座」大阪大学言語文化研究科、8 月 10 日（木）

## 日野 信行 (HINO Nobuyuki) 教授

### [教育活動]

〈研究科担当科目〉言語文化教育論、言語文化教育論特別研究

〈共通教育担当科目〉英語(Reading)、実践英語

### [研究活動]

〈研究テーマ〉「国際英語」教育

〈所属学会〉International Association for World Englishes、日本「アジア英語」学会、大学英語教育学会

### [研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・日野信行. 「共通教育の英語：『必然性』のある授業内容を心がける」小田隆治編『大学におけるアクティブ・ラーニングの現在：学生主体型授業実践集』（pp.200-210）. ナカニシヤ出版. 2016 年 11 月.
- ・Hino, Nobuyuki. Training graduate students in Japan to be EIL teachers. In A. Matsuda (Ed.) *Preparing teachers to teach English as an international language* (pp.87-99). Bristol: Multilingual Matters. 2017 年 1 月.

- Hino, Nobuyuki. The significance of EMI for the learning of EIL in higher education: Four cases from Japan. In B. Fenton-Smith, P. Humphreys & I. Walkinshaw (Eds.) *English as a medium of instruction in higher education in Asia-Pacific: From policy to pedagogy* (pp.115-131). Cham, Switzerland: Springer. 2017 年 3 月.
- 日野信行. 「緒言」 今尾康裕・岡田悠佑・小口一郎・早瀬尚子 (編) 『英語教育徹底リフレッシュ : グローバル化と 21 世紀型の教育』 (v-viii). 開拓社. 2017 年 4 月.
- 日野信行. 「多文化共生のための『国際英語』教育」 今尾康裕・岡田悠佑・小口一郎・早瀬尚子 (編) 『英語教育徹底リフレッシュ : グローバル化と 21 世紀型の教育』 (pp.2-13). 開拓社.. 2017 年 4 月.
- Hino, Nobuyuki. Pedagogy for the post-native-speakerist teacher of English. In S. Houghton & K. Hashimoto (Eds.) *Towards post-native-speakerism: Dynamics and shifts* (pp.217-233). Singapore: Springer. 2018 年 1 月.
- Hino, Nobuyuki. *EIL education for the Expanding Circle: A Japanese model*. London: Routledge. 2018 年 3 月.

〈論文〉

- Hino, Nobuyuki. Methodology for helping students to learn EIL skills in university EMI classes in Japan. 言語文化共同研究プロジェクト 2016 『グローバル社会における英語教育の方法論』 (pp.1-14). 大阪大学大学院言語文化研究科. 2017 年 5 月.
- Hino, Nobuyuki. English as an international language for Japan: Historical contexts and future prospects. *Asian Englishes*, 20(1), 27-40. 2018 年 2 月. (招待執筆)

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- 日野信行. 『『国際英語』の授業 : 多文化共生を目指す英語教育』 長崎大学平成 28 年度教養教育 FD ワークショップ. 長崎大学文教キャンパス. 2017 年 3 月 18 日. (招待講演)
- 日野信行. 「国際英語の学び : 多文化共生をめざして」 日英言語文化学会第 13 回年次大会. 明治大学駿河台キャンパス. 2017 年 6 月 10 日. (基調講演)
- Hino, Nobuyuki & Oda, Setsuko. Methodology for the integrated learning of content and ELF in higher education. The 10th Anniversary Conference of English as a Lingua Franca, University of Helsinki, Helsinki, Finland, 2017 年 6 月 14 日.
- Hino, Nobuyuki & Oda, Setsuko. Integrating the teaching of WE and ELF skills with content instruction in higher education. The 18th World Congress of Applied Linguistics (AILA 2017), Windsor Barra Hotel Convention Center, Rio de Janeiro, Brazil, 2017 年 7 月 24 日.
- 日野信行. 『『国際英語』の学び : 理論と授業実践』 教員のための英語リフレッシュ講座 (平成 29 年度大阪大学大学院言語文化研究科公開講座) 大阪大学大学院言語文化研究科. 2017 年 8 月 9 日.
- Hino, Nobuyuki. Teaching ELF in the Japanese context. Plenary symposium *Exploring English as a lingua franca and its educational significance*, JACET 56th International Convention, Aoyama

Gakuin University, 2017 年 8 月 29 日. (招待講演)

・ Hino, Nobuyuki. Larry E. Smith's concept of EIL: Its significance for ELT in Japan. Symposium *ELF and related paradigms: Educational and societal implications*, JACET 56th International Convention, Aoyama Gakuin University, 2017 年 8 月 30 日.

・ Hino, Nobuyuki. The historical context of ELF in Japan. JACET ELF-SIG Special Lecture, Waseda University, 2018 年 3 月 11 日. (招待講演)

・ 日野信行. 「これからの英語教育: ELF と CLIL」 シンポジウム「グローバル時代の小学校英語教育」 金城学院大学. 2018 年 3 月 10 日. (招待講演)

〈書評・論評・紹介〉

・ Hino, Nobuyuki. [Review of the book *The future of English in Asia*, edited by M. O'Sullivan, D. Huddart & C. Lee]. *Asian Studies Review*, 40(3), 645-646. 2016 年 12 月. (招待執筆)

〈特別寄稿〉

・ 日野信行. 「多文化共生社会を目指した Larry E. Smith 氏の EIL 論」 大坪喜子 (編) 『教員のための「国際語としての英語」学習法のすすめ』 (xi-xii). 開拓社. 2017 年 4 月 27 日.

〈研究助成〉

・ 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C) 課題番号 15K02678 「大学での英語による専門授業 (EMI) における国際英語 (ELF) の学びの方法論」 2015 年度～2017 年度 (研究代表者)

[その他の活動]

〈管理運営〉 図書館委員会委員(全学)、大学院教務委員会委員(研究科内)、広報・社会貢献検討委員会委員(研究科内)、「教員のための英語リフレッシュ講座」ワーキンググループ委員(研究科内)

〈学会活動〉 *World Englishes* (International Association for World Englishes 学会誌, Wiley) 編集諮問委員、*Intercultural Communication and Language Education* シリーズ (Springer) 編集委員、*Routledge Advances in Teaching English as an International Language* シリーズ (Routledge) 国際諮問委員、大学英語教育学会賞・学術出版物選考委員会分野長、大学英語教育学会社員、大学英語教育学会 ELF 研究会副代表

〈学内共同研究代表者〉 言語文化共同研究プロジェクト 2016 『グローバル社会における英語教育の方法論』 代表者、言語文化共同研究プロジェクト 2017 『新しい英語教育のアプローチ』 代表者

## 難波 康治 (NAMBA Koji) 准教授

<http://chiba2014.jimdo.com/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 応用マルチメディア教育論 A・B

〈共通教育担当科目〉 International Communication Seminar (Japanese) 103, International

## Communication Seminar (Japanese) 503

〈国際交流教育担当科目〉 Japanese JA100, Japanese JA500

〈大学院学際融合担当科目〉学際融合教育科目上級日本語（アカデミック・プレゼンテーション）

### [研究活動]

〈研究テーマ〉日本語教育における IT 利用、接触場面における話題マネジメント

〈所属学会〉日本語教育学会、社会言語科学会、日本デジタル教科書学会、韓国日本語文化学会

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金 基盤 C（研究代表者）「ICT 学習支援オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」（研究期間 平成 27 年度～平成 30 年度）

### [その他の活動]

〈管理運営〉教育情報化ワーキンググループ、CALL システムワーキンググループ

〈学会活動〉韓国日本語文化学会海外理事

〈社会貢献活動〉公益信託井内留学生奨学基金 運営委員会委員

## 西口 光一 (NISHIGUCHI Koichi) 教授

<https://koichimikaryo.blogspot.jp>

### [教育活動]

〈研究科担当科目〉応用言語学研究、言語文化教育論特別研究

〈共通教育担当科目〉総合日本語 JA300

〈学部教育担当科目〉Psychology of language and Japanese language acquisition

### [研究活動]

〈研究テーマ〉日本語教育学、言語心理学

〈所属学会〉日本語教育学会

### [研究業績]

〈論文〉

- ・「表現活動と表現活動主導の第二言語教育」、西口光一、投稿、『多文化社会と留学生交流』第 21 号、研究ノート、無、pp.37-45
- ・「コミュニケーション・アプローチの超克 — 基礎日本語教育のカリキュラムと教材開発の指針を求めて」、西口光一、『リテラシーズ』20 号（くろしお出版）、学術論文、招待、pp.12-23
- ・‘Sociocultural and dialogical perspectives on language and communicative activity for second language education’ Koichi Nishiguchi、招待、*Journal of Japanese linguistics* vol.33 (De Gruyter Mouton)、学術論文、有、pp.5-13
- ・「システム論の観点から見た日本語教育の課題 — 日本の大学における日本語教育の状況



を中心に」、西口光一、『日中言語研究と日本語教育』10号(好文出版)、学術論文、招待、pp.37-49

- ・「人間学とことば学として知識社会学を読み解くー 第二言語教育学のためのことば学の基礎として」、西口光一、投稿、『多文化社会と留学生交流』第22号、学術論文、有
- ・「学習言語事項からの解放と自己表現活動への移行は何を意味するかー 自己表現活動中心の基礎日本語教育と Krashen の入力仮説」、西口光一、投稿、『多文化社会と留学生交流』第22号、研究ノート、無

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「教育の企画・開発者の仕事と教授者の仕事ー 自己表現活動中心の基礎日本語教育 or NEJ」、2017年9月10日、筑波大学 CEGLOC 日本語・日本事情遠隔教育拠点シンポジウム『日本語の教科書が目指すものー 教科書執筆者・活用者と語る』於：筑波大学

- ・「記号による被媒介性からストーリーの心理学へー 第二言語発達のマトリクスとしてのナラティブ」、2017年11月5日、ヴィゴツキー学第19回大会、於：神戸勤労会館

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金基盤C 課題番号 16K02811「ことば行為についての対話論的対照研究ー対面的相互行為におけることばの日英研究」平成28年度～平成31年度(研究代表者)

[その他の活動]

〈管理運営〉評価委員会委員(国際教育交流センター)

〈学会活動〉国立大学日本語教育研究協議会代表理事、日本語教育学会大会委員と査読委員

## 西田 理恵子 (NISHIDA Rieko) 准教授

<http://www.rienishi.jimdo.com>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉応用言語学研究論 A・B

〈共通教育担当科目〉英語(Reading)、実践英語

[研究活動]

〈研究テーマ〉応用言語学研究(動機づけ、情意要因)、英語教育、小学校外国語活動、研究方法論

〈所属学会〉大学英語教育学会、外国語教育メディア学会、全国英語教育学会、小学校英語教育学会、Psychology of Language Learning (PLL3)

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・西田理恵子(2017). 英語教育徹底リフレッシュ:グローバル化と21世紀型教育. 第3章. グローバル化時代における日本人英語学習者の動機付けと情意:理論と実践を融合して. pp.26-38. 開拓社.

〈論文〉

- Yashima, T. [1], Nishida, R.[2] & Mizumoto, A.[3] (2017- Nov) "Influence of Learner Beliefs and Gender on the Motivating Power of L2 Selves". *Modern Language Journal*. 101 (4), 691-711.
- Nishida, R.[1], and Yashima, T. [2] (2017). Language proficiency, motivation and affect among Japanese University EFL learners focusing on early language learning. *ARELE* 28. 1-16.
- 西田理恵子 (2017). 中学校段階における学習者動機と言語能力に関する実証研究. 公益財団法人日本英語検定協会 英語教育研究センター委託研究 調査報告書. p.1-p.115.
- 西田理恵子(2016). 招待論文.「英語での発信力を育成するための大学英語教育最前線」大学英語学習者におけるプレゼンテーションの効果：動機付けの視点から. *Cybermedia Forum*, No.17, 23-26. Cybermedia Center. Osaka University.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- R. Nishida (2018). The psychology of content and language learning in the Japanese EFL context. Focus on Language 2018 Conference. Freiburg, Germany. March 22-24.
- R.Nishida [2] with Q.Oga-Baldwin [1] (2017). What motivates learners in content-integrated courses? Measuring the psychology of CLIL and EMI. The Applied Linguistics Association of New Zealand (ALANZ). Auckland, New Zealand
- 西田理恵子 (2018). 大学英語学習者における動機づけ：内容と言語を融合して. *The psychology of Language Learning in the Japanese EFL context*. 科学研究費助成金シンポジウム企画. 大阪大学大学院言語文化研究科. 3月3日.
- 西田理恵子 (2017). 中学校段階における学習者動機と言語能力に関する実証研究：2年間の縦断調査. 全国英語教育学会 第43回島根研究大会. 島根大学. 8月20日.
- 西田理恵子 (2017). 第二言語学習時における動機づけと情意：内容と言語を統合して. 教員のための英語リフレッシュ講座. 大阪大学大学院言語文化研究科. 8月10日.
- 西田理恵子 [1]. 廣森友人 [2]. 阿川敏恵 [3]. 小島直子 [4] (2017). 日本人英語学習者における動機づけと情意に関する縦断的变化に関する実証研究. 企画シンポジウム. 外国語教育メディア学会. 全国研究大会. 名古屋学院大学. 8月6日.
- 西田理恵子 (2017). 質問紙の作り方！小学校外国語活動における児童の動機づけと情意に焦点をあてて. ワークショップ. 招待講義. 小学校英語教育学会. 神戸市外国語大学. 神戸. 7月29日.
- 西田理恵子 (2017). 動機づけ研究における縦断データを用いて. ワークショップ. 第9回動機づけ理論研究会. 大阪大学大学院言語分研究科. 大阪. 7月2日.
- 西田理恵子 (2016). 質問紙の作り方！小学校英語活動における研究方法と統計分析ワークショップ. 小学校英語教育学会研究推進委員会主催. 亜細亜大学. 東京. 招待講義. 11月20日.

〈研究助成〉

- 平成29年度～平成33年度 (代表) 「大学英語学習者を対象とした内容言語統合型学習に

関する縦断調査」 科学研究費助成金 基盤研究 B 17H02359

・平成 27 年度～平成 30 年度 (代表) 「複雑性理論を基盤とした学習者の言語能力と動機付けの変化に関する縦断的調査」 科学研究費助成金 挑戦的萌芽研究 15K12907

・平成 27 年度～平成 29 年度 (代表) 「中学校段階における学習者動機と言語能力に関する実証研究」 公益財団法人日本英語検定協会 英語教育研究センター委託研究  
(受賞)

・西田理恵子. 「大阪大学大学賞 (若手部門)」 受章. 2017 年 11 月.  
(調査活動)

・豊野町立吉川中学校と日本英語検定協会の協力のもと、中学校 1 年生から中学校 3 年生を対象に中学生の言語運用能力と動機づけや心理要因に関する調査を行っている。

[その他の活動]

(学会活動) Psychology of Language Learning (PLL3) 国際学会大会実行委員、小学校英語教育学会研究推進委員、外国語教育メディア学会関西支部運営委員、動機づけ研究会関西エリア運営委員。

(社会貢献活動) 英語リフレッシュ講座講師, 大阪府豊能郡豊能町立吉川中学校共同研究員。

## 村上スミス アンドリュー (MURAKAMI-SMITH, Andrew) 准教授

[教育活動]

(研究科担当科目) 言語表現生態論

(共通教育担当科目) 英語(Speaking)、英語(Writing)、英語(Integrated Course)、専門英語基礎

(学部教育担当科目) 言語文化教育論

(全学国際交流科目) 近代・現代日本文学、近代日本文学における大阪

[研究活動]

(研究テーマ) 近代・現代日本文学、日本の地域言語文化、翻訳理論

[研究業績]

(論文)

・村上スミス・アンドリュー 「The Relevance of Ono Tozaburo's Poetry Today」 『言語文化共同研究プロジェクト 2016「交差するレトリック—精神と身体、メタファーと認知—』 (大阪大学大学院言語文化研究科、2017 年 5 月)

(口頭発表・講演・学会報告)

・ “The Relevance of Ono Tozaburo's Poetry Today” レトリック研究会 (2017 年 3 月 10 日)  
(研究助成)

・共同研究「字幕の機械翻訳における翻訳品質改善の研究」(株式会社ピクセラと共同)

[その他の活動]

(管理運営) サイバーメディア・センター兼任、全学国際交流委員会傘下の OUSSEP 運営 SubWG 委員

〈社会貢献活動〉英語リフレッシュ講座講師、サイバーメディア・センター次世代型市民講座講師

### 力武 京子 (RIKITAKE Kyoko) 准教授

<http://www.k2r.org/malte/>

#### [教育活動]

〈研究科担当科目〉異言語教育方法論

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級 I, II, ドイツ語中級、地域言語文化演習

〈学部教育担当科目〉言語文化教育論 (外国語学部)

#### [研究活動]

〈研究テーマ〉ドイツ語教育(Deutsch als Fremdsprache)、ICT を活用した外国語教育、多文化・多言語共生社会のコミュニケーション

〈所属学会〉日本独文学会、日本独文学会教育部会、ドイツ語情報処理学会

〈論文〉

- ・身近な ICT ツールによる協働協調学習とすきま学習の試み ― iPad とスマートフォンを使用した 2 年生の授業の例 ―

### 【言語情報科学講座】

### 岩根 久 (IWANE Hisashi) 教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~iwane/>

#### [教育活動]

〈研究科担当科目〉コーパス言語学研究、言語情報科学特別研究

〈共通教育担当科目〉フランス語初級、フランス語中級、フランス語中級選択、地域言語文化演習 (フランス語)

#### [研究活動]

〈研究テーマ〉フランス文学・言語資料処理

〈所属学会〉日本フランス語フランス文学会、日本フランス語学会、日本ロンサール学会、e-Learning 教育学会

#### [研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・(共著)『アクティブラーニング型授業としての反転授業[実践編]』(森朋子・溝上慎一編): 「フランス語初級文法クラスのプチ活性化―反転授業的活動の導入事例」、ナカニシヤ出版、pp.127-137、2017 年 5 月

〈論文〉

- ・「コーパス分析ソフト CasualConc の活用(1)―ロンサールの論説詩とプロテスタント詩人による版ロンサール詩を例として―」、『ロンサール研究』・日本ロンサール学会、30 号、

pp.139-145、2017年8月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「反ロンサールパンフレットの計量的特徴の再検討」、統計数理科学研究所共同研究グループ・統計数理研究所言語系共同研究グループ合同発表会「言語研究と統計2017」、統計数理研究所、2017年3月28日
- ・「テキスト理解のために計量的手法を—Mac用フリーソフト CasualConc を用いたラブレールとモンテーニュの語彙の比較を例に—」、ラブレール・モンテーニュ研究フォーラム、東京大学、2017年6月3日
- ・「語彙計量的手法を日常のテキスト分析に(2)—頻度の可視化について—」、日本ロンサール学会2017年度大会、同志社びわこリトリートセンター、2017年8月12日

〈研究助成〉

基盤研究(C)(H29~H32 大阪府立大学)「観光業の苦情対応における日英比較の研究—語用論を活かしたESP教材の開発—」(研究代表者 岩井千春) 研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉教育課程委員会委員、学務情報システム運用WG委員、大学院教務委員会委員長、博士学位論文受理検討委員会委員長、ネットワーク運用管理委員会委員

〈学会活動〉日本ロンサール学会会長、日本ロンサール学会編集委員、e-Learning教育学会副会長

## 上田 功 (UEDA Isao) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語情報科学、言語情報科学特別研究(言語文化研究科)、小児発達評価・療育学(大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学 連合小児発達学研究科)、Academic English I, II(未来戦略機構第1部門超域イノベーション・プログラム)

〈学部教育担当科目〉英語1、英語8、言語学の基礎、英語学演習、英語学特別演習(外国語学部)、英語インテグレイテッドコース(共通教育機構)

[研究活動]

〈研究テーマ〉言語学(音韻論、音声学、言語獲得、言語障害、法言語学)、アメリカ鉄道発達史

〈所属学会〉日本言語学会、日本英語学会、日本音声学、日本音韻論学会、日本音声言語医学会、日本第二言語習得学会、関西言語学会、日本語用論学会、Linguistic Society of America, The International Clinical Linguistics and Phonetics Association、日本鉄道史学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「音韻理論と音韻事象」(単)『音韻研究』20 131-136. 2017年 査読有り
- ・Word Accent Repetition in Japanese Children with Reading Difficulties. (共) Journal of Special

Education Research 5(2), 49-54. 2017. 査読有り

- ・「等位節省略再訪」(単)『ことばを編む』西岡宣明・福田稔・松瀬憲司・長谷信夫・緒方隆文・橋本美喜男(編) 17-26 開拓社 2018年 査読有り
- ・「大学院生対象の英語教育―「超域イノベーション・プログラム」における実践例」(単)『外国語教育のフロンティア』1 279-284 2018年  
(紹介)
- ・「英米語学」『蛍雪時代 全国大学学部・学科案内号』 2017年4月  
(口頭発表・講演・学会報告)
- ・「イントネーション習得の諸相---音韻、統語、語用の交差するところ」日本英語学会第34回大会(金沢大学)(招待発表)  
(研究助成)
- ・科学研究助成費：基盤研究 B 音韻障害と外国語訛りの平行性に関する言語学的研究(代表)、同B(分担)
- [その他の活動]
  - 〈管理運営〉国際交流委員会委員(言語文化研究科)、プログラム担当者(未来戦略機構)
  - 〈学会活動〉日本音韻論学会会員(顧問)、日本音声学会会員(評議員、国際交流委員)、日本音声言語医学会会員(査読委員)、American Speech-Language-Hearing Association 査読委員、日本言語学会会員、日本英語学会会員、関西言語学会会員、日本語用論学会会員、International Symposium for Monolingual and Bilingual Speech 運営委員
  - 〈社会貢献活動〉言語障害者援助のNPO 法人 CAN(コミュニケーション・アシスト・ネットワーク)会員、日本学術振興会特別研究員等審査委員会専門委員

## 越智 正男 (OCHI Masao) 准教授

<https://sites.google.com/site/masaoochi/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉理論言語学研究

〈共通教育担当科目〉英語(Reading)、実践英語

[研究活動]

〈研究テーマ〉格の交替現象、名詞句の比較統語論

〈所属学会〉日本言語学会、日本英語学会、関西言語学会

[研究業績]

〈編著書、共著〉

- ・越智正男 「名詞修飾節における格の交替現象」, 『日本語文法ハンドブッカー言語理論と言語獲得の観点から』, pp. 146 - 188, 開拓社, 2016年11月.
- ・Ochi, Masao. "Ga/No Conversion," *Handbook of Japanese Syntax*, pp. 663 - 700, Mouton de Gruyter, 2017年10月

〈論文〉

- ・ Ochi, Masao. "Some Remarks on Ga/No Conversion and Feature Inheritance," 『大阪大学言語文化研究科研究プロジェクト 2016 自然言語への理論的アプローチ』, pp. 21-30, 2017 年 5 月.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ 越智正男 「ガ/ノ交替とフェイズ理論に関する考察」, 日本語から生成文法理論へ：統語理論と言語獲得 第 1 回ワークショップ, 国立国語研究所, 2016 年 12 月 26 日.
- ・ 越智正男 「名詞修飾節における格の交替現象」 慶應義塾大学言語学コロキウム, 言語文化研究所, 慶應義塾大学, 2017 年 5 月 4 日.
- ・ Ochi, Masao. "Negative Polarity and Extended Nominal Projections in Japanese," CUHK Linguistics Seminar, Chinese University of Hong Kong (招待講演), 2017 年 9 月 19 日.
- ・ 越智正男. 「日本語の「移動」現象に見る文法の不思議」, 第 42 回神戸女学院大学英語英文学会 (招待講演), 神戸女学院大学, 2017 年 11 月 24 日.
- ・ Ochi, Masao. "Ga/No Conversion and Feature Inheritance," 日本語から生成文法理論へ：統語理論と言語獲得 第 2 回ワークショップ, 国立国語研究所, 2017 年 12 月 9 日.

〈研究助成〉

- ・ 科学研究費補助金 基盤 (C) 研究代表者: 「類別詞の統語と意味に関する対照言語学的研究」 (平成 25 年 4 月～平成 29 年 3 月)
- ・ 科学研究費補助金 基盤 (C) 研究代表者: 「名詞項パラメータ化仮説の検証に基づく名詞項構造の普遍的性質の解明」 日本学術振興会 (平成 29 年 4 月 ~)

[その他の活動]

〈学会活動〉 日本言語学会大会運営委員、日本英語学会学会賞選考委員、学術雑誌 (Journal of East Asian Linguistics, Syntax, Glossa, Language and Linguistics Compass, 言語研究, 等) 応募論文査読、国際学会応募要旨査読.

〈社会貢献活動〉 放送大学面接授業講師 (2017 年 10 月).

## 坂内 千里 (SAKAUCHI Chisato) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語情報科学論、言語情報科学特別研究

〈共通教育担当科目〉 中国語初級、中国語中級選択、国際コミュニケーション演習 (中国語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 中国の古い字書 (特に『説文解字』の注釈研究)

〈所属学会〉 日本中国学会、東方学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 『説文解字 繫傳』 「疑義篇」 考 (三) — 「通釋篇」 中の偏旁について —, 大阪大学大学院

言語文化研究科『言語文化研究』43、pp.51-75、2017年3月

[その他の活動]

〈管理運営〉ファカルティ・ディベロプメント委員会委員（学内、H28年度）、中国語部会主任、財務会計委員会委員、学生支援委員会委員など（部内、H28年度）

## 田畑 智司 (TABATA, Tomoji) 准教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~tabata/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉コーパス言語学研究, 言語情報科学特別研究特別研究

〈共通教育担当科目〉英語(Reading), 実践英語, 専門英語基礎

〈学部教育担当科目〉言語情報科学論

[研究活動]

〈研究テーマ〉Digital Humanities (デジタルヒューマニティーズ), Stylometry, Authorship Attribution, 機械学習を応用した近・現代英語散文の文体研究

〈所属学会〉The European Association for Digital Humanities (EADH), Association for Computers and the Humanities (ACH), Canadian Society for Digital Humanities / Société canadienne des humanités numériques (CSDH/SCHN), Australasian Association for Digital Humanities (aaDH), Japanese Association for Digital Humanities (JADH: 日本デジタルヒューマニティーズ学会), The Poetics and Linguistics Association (PALA), Dickens Fellowship, 英語コーパス学会, 情報処理学会人文学とコンピュータ研究会(SIG-CH)

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・田畑 智司 編『テキストマイニングとデジタルヒューマニティーズ』（大阪大学大学院言語文化研究科 言語文化共同研究プロジェクト2016 成果報告書）2017年.

〈論文〉

- ・Tomoji Tabata, Mapping Dickens's Style in the Network of Words, Topics, and Texts, *Practical Stylometry: Genres, Topics, and Key Words* (The Institute of Statistical Mathematics Cooperative Research Report 405), pp. 75–84
- ・田畑 智司「修辞的特徴のマイニング: Dickens と 18–19 世紀英国小説の文体」『英語コーパス研究』（英語コーパス学会）pp. 101–122, 2017年.
- ・田畑 智司「FLOB コーパスの意味構造: 確率論的トピックモデルによる言語使用域の特徴付け」言語文化共同研究プロジェクト2016『テキストマイニングとデジタルヒューマニティーズ』（大阪大学大学院言語文化研究科 言語文化共同研究プロジェクト2016 成果報告書）pp. 5–22, 2017年.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・Mapping Classic Fiction in Networks: Key words, Topics, and Distant Reading, ポスター発表



第2回大阪大学豊中地区 研究交流会「文×理『知』の融合」2018年1月10日大阪大学・南部陽一郎ホール.

- “Birds of a feather flock together”: Literary Vocabulary in Vector Space, ポスター発表 第2回大阪大学豊中地区 研究交流会「文×理『知』の融合」2018年1月10日大阪大学・南部陽一郎ホール.
- Through the Different Routes to the Same Landscape: What Do the Text-Clysterings Tell Us about Style? DARIAH-EU International Expert Workshop on Distant Reading in Literary Texts, 23–24 November 2017, The University of Würzburg, Germany.

<http://dariah-tda.github.io/meeting/activity/workshop/2017/11/23/Workshop-Distant-Reading.html>

(招待講演)

- Tomoji Tabata, Applying Topic Models to Describe the Composition of the FLOB Corpus: Can the external criteria be associated with meaningful sets of internal evidence? JAECS 43rd Annual Conference (英語コーパス学会第43回大会) 2017年9月30日 関西学院大学.
- Tomoji Tabata, Mapping Dickens’s Novels in the Network of Words, Topics, and Texts: Topic-Modelling of a Corpus of Classic Fiction, JADH 2017 (The Japanese Association for Digital Humanities 7th International Conference), 11–12 September 2017, Doshisha University.
- Tomoji Tabata, Topic Modelling Dickens’s Fiction, PALA 2017 (Poetics And Linguistics Association Annual Conference), 19–22 July 2017, West Chester University of Pennsylvania, USA.
- 田畑 智司 The Semantic Universe of Classic Fiction 「言語研究と統計 2017」2017年3月27–8日 大学等共同利用法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所.
- Tomoji Tabata, Collaborative Texts under a Stylometric Microscope: Investigating Cases of Mixed Authorship ポスター発表 大阪大学豊中地区 研究交流会「文×理『知』の融合」2016年12月20日大阪大学・大阪大学会館.
- Tomoji Tabata, Sequencing a Literary Genome of Classic Fiction: When the Humanities Meets Digital ポスター発表 大阪大学豊中地区 研究交流会「文×理『知』の融合」2016年12月20日大阪大学・大阪大学会館.
- 田畑 智司「デジタルが拡張するテキスト分析と文体論: Stylometry の現在」『英学シンポジウム—文体論で極める文学とコミュニケーション—』2016年11月19日兵庫県立大学・姫路キャンパス (招待講演)

〈研究助成〉

- 2017–2018 年度日本学術振興会二国間交流事業ドイツ(DAAD)との共同研究「文学テキストにおけるコンプレキシティの計量言語学的研究」日本側研究代表者
- 2015–2017 年度科学研究費補助金基盤研究(C)「マイニング技術を応用した著者推定法の開発とディケンズ・ジャーナルの計量文体研究」研究代表者
- 2014–2016 年度科学研究費補助金基盤研究(C)「次世代ディケンズ・レキシコン・デジタルの開発とそれに基づく後期近代英語研究」研究分担者 (研究代表者: 熊本学園大学・堀正)

広)

[その他の活動]

〈管理運営〉 2017 大学院図書委員会委員長

〈学会活動〉 The Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO) Steering Committee, ADHO Standing Committee on Awards, Chair of the Japanese Association for Digital Humanities, 英語コーパス学会理事, 『英語コーパス研究』 編集委員, 英語コーパス学会学会賞選考委員

〈社会貢献活動〉 放送大学非常勤講師

### 韓 喜善 (HAN Heesun) 助教

[研究活動]

〈研究テーマ〉 言語学、音声学

〈所属学会〉 日本言語学会、日本音声学会、韓国音声学会、Acoustical Society of America、International Phonetic Association, 大阪大学言語文化学会, 近畿音声言語研究会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 韓喜善 (2017) 「韓国語母語話者による日本語の撥音の知覚判断：撥音に母音が後続する場合」『音声言語の研究 11』, pp. 73-84.
- ・ 韓喜善・野澤健 (2017) 「韓国語母語話者による英語の母音の知覚判断-後続子音の影響について-」『日本音声学会第 31 回全国大会予稿集 (日本音声学会)』, 全 6 ページ (電子版 PDF).

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ Han Heesun (2016) “Perception of the Japanese moraic-nasal (/N/) by Korean native speakers: Concerning /N/ followed by vowels,” 5th Joint Meeting Acoustical Society of America and Acoustical Society of Japan.
- ・ 韓喜善・野澤健 (2017) 「韓国語母語話者による英語の母音の知覚判断-後続子音の影響について-」『日本音声学会第 31 回全国大会 (日本音声学会)』.
- ・ Han, H. and T. Nozawa (2017) “The perception of English Vowels by Korean Native Speakers: Concerning the influence of the manner of articulation for consonants following vowels,” 174 th Meeting Acoustical Society of America.

[その他の活動]

〈管理運営〉 大阪大学言語文化学会事務局

### ホドシチェク ボル (HODOŠČEK Bor) 准教授

<https://nlp.lang.osaka-u.ac.jp/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 自然言語処理

〈共通教育担当科目〉 実践英語、実践英語（上級）、英語(integrated course)、英語(Speaking)、英語上級(Speaking)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 自然言語処理、コーパス言語学、日本語作文支援システム

〈所属学会〉 言語処理学会、Japanese Association for Digital Humanities (JADH) & Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO)、専門日本語教育学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・習ったはずなのに使えない文法, 仁科 喜久子, 八木 豊, 阿辺川 武, ホドシチェク ボル, くろしお出版, I S B N, 9784874247433, 2017年10月

〈論文〉

- ・作文学習支援システムのための接続表現辞典構築, 仁科 喜久子, 八木 豊, ホドシチェク ボル, 阿辺川 武, 計量国語学, 31 2 160-176, 2017年09月
- ・Constructing an ontology and database of Japanese lexical properties: Handling the orthographic complexity of the Japanese writing system, Joyce Terry, Hodošček Bor, Masuda Hisashi, Written Language & Literacy, 20 1 27-51, 2017年07月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・歌ことば「橘」「梅」「桜」における関連対の抽出, ホドシチェク ボル, 山元 啓史, 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集, 2017(2)207-212, 2017年12月, 会議報告/口頭発表 (情報処理学会人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん 2017」ベストポスター賞)
- ・Relationships between Flowers in a Word Embedding Space of Classic Japanese Poetry, Yamamoto Hilofumi, Hodošček Bor, 7th Conference of Japanese Association for Digital Humanities “Creating Data through Collaboration”, 70-72, 2017年09月, 国際会議 (proceedings あり)
- ・クラウドソーシングを用いた発音評価システムの開発に向けて, 高橋 恵利子, 畑佐 由紀子, 山元 啓史, Hodošček Bor, 前川 眞一, 7th International Conference on Computer Assisted Systems For Teaching & Learning Japanese (CASTEL/J), 1-2, 2017年08月, 国際会議 (proceedings あり)

〈研究助成〉

- ・基盤研究(C)『日本語作文支援システムにおける誤用の検出及び添削に有用な情報の提示法の研究』(H27~H29) (代表: 阿辺川武) (研究課題番号 J15K01114) 研究分担者
- ・基盤研究(B)『日本語発音学習を支援するダイナミック・アセスメント・システムの開発』(H29~H33) (代表: 畑佐由紀子) (研究課題番号 17H02361) 研究分担者
- ・共同研究費『字幕の機械翻訳における翻訳品質改善の研究』(2016年10月~2018年3月) 研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉 部局情報システムセキュリティ責任者、部局ネットワーク運用管理責任者、コンテンツ管理責任者、キャンパスメールサービス管理者

〈社会貢献活動〉 英語リフレッシュ講座ディスカッションセクション講師、翻訳 Café「人工知能とニューラル機械翻訳の現状と未来」パネリスト

### 三藤 博 (MITO Hiroshi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語構造論、言語構造論特別研究

〈共通教育担当科目〉 フランス語初級、フランス語中級、フランス語中級選択、地域言語文化演習（フランス語）

[研究活動]

〈研究テーマ〉 理論言語学、フランス語学

〈所属学会〉 日本言語学会、日本フランス語学会、日本フランス語フランス文学会、日本英語学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「意味論におけるモデル形成を再考する」、『自然言語への理論的アプローチ』、大阪大学言語文化研究科、2017年、pp. 59-66.

[その他の活動]

〈管理運営〉 総合学術博物館運営委員

〈学会活動〉 日本フランス語学会編集委員

〈社会貢献活動〉 大阪府立大手前高等学校サイエンス探究最終発表会講評担当（2017年7月15日実施）、大阪府立大手前高等学校「大学教員による特別集中セミナー」講師（2017年12月8日実施）

### 三宅 真紀 (MIYAKE Maki) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 コーパス言語学研究

〈共通教育担当科目〉 英語(Reading), 専門英語基礎

[研究活動]

〈研究テーマ〉 計算言語学, コーパス言語学, 新約聖書学

〈所属学会〉 情報処理学会準会員 (人文科学とコンピュータ研究会), Japanese Association for Digital Humanities (JADH: 日本デジタルヒューマニティーズ学会)

[研究業績]

〈論文〉

- ・「異読距離から測る人工写本の系統樹推定—校合様式の違いによる推定結果の比較—」『統

計数理研究所共同研究レポート, 386: テクストマイニングとデジタルヒューマニティーズ』, pp.31-44, 2017年3月.

- ・「語彙多様性指標からみる新約聖書ギリシャ語校訂本の分類—決定木モデルによる文学類型および著者の判別を中心として—」『統計数理研究所共同研究レポート, 405: 実践計量文体学: ジャンル, トピック, キーワード』, pp.35-54, 2018年3月.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「編集距離による新約聖書正文批判研究の試み—Profile Method との比較—」, 言語研究と統計 2017, 統計数理研究所, 2017年3月.

- ・「語彙多様性指標からみる新約聖書ギリシャ語校訂本の分類」, 言語研究と統計 2018, 統計数理研究所, 2018年3月.

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金基盤研究 (S) 「仏教学新知識基盤の構築—次世代人文学の先進的モデルの提示 (下田正弘代表)」研究連携者

[その他の活動]

〈管理運営〉全学教育推進機構実施調整部言語教育部会兼任, データビリティフロンティア機構兼任, ネットワーク運用管理委員会委員, 設備・施設マネジメント委員

〈学会活動〉人文科学とコンピュータ研究会運営委員, JADH 選挙管理委員, DH2018 Program Committee

## 宮本 陽一 (MIYAMOTO Yoichi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉理論言語学研究、言語情報科学特別研究

〈共通教育担当科目〉英語 (Reading)

〈学部教育担当科目〉言語学概論 A

[研究活動]

〈研究テーマ〉NP 削除の認可条件、関係節の統語構造、項削除の習得

〈所属学会〉日本英語学会、日本言語学会、日本英文学会、関西言語学会

[研究業績]

〈編著書、共著〉

- ・宮本陽一「名詞句内の省略」『日本語文法ハンドブック—言語理論と言語獲得の観点から』, 265-298, 開拓社, 11/2016.

- ・宮本陽一「生成文法から英語教育へ」『英語教育徹底リフレッシュ—グローバル化と21世紀型の教育』, 203-210, 開拓社, 04/2017.

- ・Miyamoto, Y. and K. Yatsushiro. “On Scope Interaction between Subject QPs and Negation in Child Grammar,” *Studies in Chinese and Japanese Language Acquisition: In Honor of Stephen Crain*, 165-196, John Benjamins, 09/2017.

- Miyamoto, Y. “Relative Clauses,” *Handbook of Japanese Syntax*, 611-634, Mouton de Gruyter, 10/2017.

〈論文〉

- Miyamoto, Y. “A Note on Quotes in Japanese Clefts,” 『大阪大学言語文化研究科研究プロジェクト 2016 自然言語への理論的アプローチ』 67-76, 05/2017.
- Yamada, K. and Y. Miyamoto. “On the Interpretation of Null Arguments in L2 Japanese by European Non-pro-drop and Pro-drop Language Speakers,” *Journal of European Second Language Association*, 1(1), 73-89, 08/2017.
- Miyamoto, Y. and K. Yamada. “On a Mixed Nature of L3 Spanish Grammar of L1 Japanese Subjects with L2 English,” *Proceedings of the International Symposium on Monolingual and Bilingual Speech 2017*, 193-198, 12/2017.
- Miyamoto, Y. “On Indeterminate Pronominal Binding in Double Complement Unaccusatives in (Tokyo) Japanese,” 『関西英文学研究』 第 11 号, 49-56, 01/2018.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- 宮本陽一「日本語の引用について」日本語から生成文法理論へ：統語理論と言語獲得 第 1 回研究発表会, 国立国語研究所, 12/26/2016.
- 宮本陽一「名詞句内の省略」慶應義塾大学言語学コロキウム, 言語文化研究所, 慶應義塾大学, 05/04/2017.
- 宮本陽一 “On Indeterminate Pronominal Binding in Double Complement Unaccusatives in Japanese,” 九州大学言語学講演会, 人文科学研究院, 九州大学, 08/10/2017.
- Miyamoto, Y. and K. Yamada. “On a Mixed Nature of L3 Spanish Grammar of L1 Japanese Subjects with L2 English,” *International Symposium on Monolingual and Bilingual Speech 2017*, ISMBS, Island of Crete, Greece, 09/07/2017.

〈学会賞〉

- 第 8 回 JCHAT 賞 (優秀論文賞) 日本言語科学会, 07/02/2017.

〈研究助成〉

- 科学研究費補助金 (基盤研究 C : 研究代表者) 「抽出領域条件に関する比較統語論的研究」日本学術振興会 (04/2014-03/2018)
- 科学研究費補助金 (基盤研究 C : 研究分担者) 「非頭在的な要素に関する第二言語習得研究」日本学術振興会 (04/2012-03/2017)
- 科学研究費補助金 (基盤研究 B : 研究分担者) 「文法性の錯覚から見た第二言語処理の解明と、その英語教育への応用」日本学術振興会 (04/2017-03/2020)
- 科学研究費補助金 (基盤研究 C : 研究分担者) 「名詞項パラメータ化仮説の検証に基づく名詞項構造の普遍的性質の解明」日本学術振興会 (04/2017-03/2020)
- 二国間交流事業 (共同研究 (DAAD) : 研究代表者) 「量化に関する実験語用論的研究」日本学術振興会 (04/2016-03/2018)

[その他の活動]

〈管理運営〉大学院入試委員会委員 (-03/2017)、科研費相談員 (-03/2017)、大学院言語情報科学講座代表者 (04/2017-03/2018)、英語部会主任 (04/2017-03/2018)

〈学会活動〉大阪大学言語文化学会委員 (-03/2017)、日本言語学会夏期講座委員、Journal of East Asian Linguistics Editorial Board、国際学会発表要旨・学術雑誌論文査読。

**由本 陽子 (YUMOTO Yoko) 教授**

[教育活動]

〈研究科担当科目〉理論言語学研究、言語情報科学特別研究

〈共通教育担当科目〉英語(Reading)、実践英語、専門英語基礎

[研究活動]

〈研究テーマ〉語彙意味論、語形成論

〈所属学会〉日本英語学会、日本言語学会、日本語文法学会、関西言語学会、日本英文学会、日本英文学会関西支部

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・「事象から属性へ」『現代言語理論の最前線』西原 哲雄、田中 真一、早瀬 尚子、小野 隆啓 (編) 2017.11. pp. 263-279. 開拓社.
- ・「動詞・名詞の意味構造」『<不思議>に満ちたことばの世界』高見 健一、行田 勇、大野 英樹 (編) 2017.3. pp.7-11. 開拓社.

〈論文〉

- ・「部分名詞を非主要部とする複合語から見た動詞由来複合名詞の叙述性再考」由本 陽子 (編)『言語文化プロジェクト 2016：自然言語への理論的アプローチ』2017.5. pp.87-96. 大阪大学言語文化研究科.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・講演 「日本語の複合動詞の意味と形成メカニズムについて」 2018.2.9. 立命館大学国際言語文化研究所萌芽プロジェクト学術講演会. 於立命館大学衣笠キャンパス.
- ・シンポジウムの企画、司会、発表 『語彙・構文の文法現象における名詞の役割』「複合語形成から明らかになる部分名詞と形質名詞の性質」 2017.12.17. 日本英文学会関西支部第12回大会. 於京都女子大学.

〈研究助成〉

- ・科学研究費 基盤 (C) 研究代表者 「語形成による事象叙述から属性叙述へのタイプシフト：語彙意味論からのアプローチ (平成 24 年度～平成 28 年度)
- ・科学研究費 基盤 (B) 研究代表者 「語形成から迫る形容詞の意味と項構造」 (平成 29 年度～平成 32 年度)

[その他の活動]

〈管理運営〉 グローバル連携オフィス員（旧グローバル連携室員）、全学施設マネジメント委員会、部内人権問題委員会、部内設備施設マネジメント委員会、部内国際交流委員会、部内研究企画推進委員会

〈学会活動〉 日本言語学会評議員、大会発表賞審査委員、日本英語学会評議員、関西言語学会運営委員、『言語研究』、『日本語文法』、*Japanese Korean Linguistics* など国内外の学術誌への投稿論文や学会発表論文の査読

〈社会貢献活動〉 放送大学 客員教授（2017.3.31 まで）、取材協力（2017 年 8 月 2 日朝日新聞朝刊 コラム「ことばの広場」）

### 【言語認知科学講座】

井元 秀剛 (IMOTO Hidetake) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 認知意味理論研究

〈全学共通教育担当科目〉 フランス語初級、フランス語中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉 フランス語学、認知言語学

〈所属学会〉 日本フランス語学会、日本フランス語フランス文学会、日本認知言語学会、日本英語学会、国際ロマンス語学会、国際認知言語学会

[研究業績]

〈単著〉

・『中級フランス語－時制の謎を解く』白水社 2017 年 9 月

〈研究助成〉

・科学研究費補助金基盤研究(C)研究代表者：「メンタルスペース理論によるアスペクトに関する日英対照研究（平成 26 年 4 月～）」

[その他の活動]

〈管理運営〉 言語文化学会副委員長、大阪大学 21 世紀懐徳堂企画会議委員

大森 文子 (OMORI Ayako) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 認知レトリック論研究

〈共通教育担当科目〉 英語(Reading)、実践英語、専門英語基礎

[研究活動]

〈研究テーマ〉 認知言語学

〈所属学会〉 日本英文学会、日本英文学会関西支部、日本英語学会、日本認知言語学会

[研究業績]

〈論文〉



- ・「束縛と孤独：イメージスキーマで読み解く Owen の “S. I. W.”」『交差するレトリック：精神と身体、メタファーと認知（言語文化共同研究プロジェクト 2016）』ジェリー・ヨコタ編. pp. 19-28. 大阪大学大学院言語文化研究科. 2017 年 5 月  
〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・「藤井治彦先生の思い出」第 50 回阪大英文学会シンポジウム『シンポジウム・藤井治彦』（於：大阪大学）（司会：服部典之、講師：新野緑、渡辺克昭、大森文子、川島伸博、足達賀代子）2017 年 10 月 28 日  
〈研究助成〉
- ・日本学術振興会科学研究費補助金による助成（基盤研究（C））  
[その他の活動]  
〈管理運営〉（平成 28 年度）マルチメディア外国語教育委員会委員、大学院教務委員会委員、博士學位論文受理検討委員会委員、（平成 29 年度）学生支援委員会委員、大学院図書委員会委員  
〈学会活動〉日本認知言語学会開催校委員、言語文化レトリック研究会（言語文化研究科内研究会）主催

#### 木内 良行 (KINOUCHI Yoshiyuki) 教授

##### [教育活動]

〈研究科担当科目〉言語認知科学論、言語認知科学特別研究

〈共通教育担当科目〉第 2 外国語フランス語初級

〈学部教育担当科目〉外国語学部にて、フランス語 1（初級文法）、フランス語 11（中級文法）、フランス語学講義

##### [研究活動]

〈研究テーマ〉フランス語及び日本語の統語論

〈所属学会〉日本フランス語フランス文学会、日本フランス語学会、大阪大学仏語仏文学会、大阪大学言語文化学会、日本認知言語学会

##### [研究業績]

〈口頭発表〉

- ・「フランス語使役文における被使役者名詞の表現形式について」、大阪大学仏語仏文学会第 82 回研究会（大阪大学、2018 年 3 月）

##### [その他の活動]

〈管理運営〉言語文化研究科言語認知科学講座代表、入試委員会委員、外国語教務委員会委員、マルチメディア外国語教務委員会委員

〈学会活動〉大阪大学仏語仏文学会会計監査

#### 小薬 哲哉 (KOGUSURI Tetsuya) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 認知言語学研究 B、研究発表演習

〈共通教育担当科目〉 英語(Reading)、実践英語、専門英語基礎、英語選択

[研究活動]

〈研究テーマ〉 語彙意味論・構文文法理論・並列構造理論

〈所属学会〉 日本英語学会、日本言語学会、日本認知言語学会、関西言語学会、日本語文法学会、日本英文学会、日本英文学会関西支部、英語語法文法学会、筑波英語学会、大阪大学言語文化学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・小藁哲哉 (2017) 「再帰構文における受動化の成立条件」『日本語文法』17 巻 1 号、20-36、くろしお出版、2017 年 4 月.
  - ・小藁哲哉 (2017) 「形が違えば意味も違う—認知言語学的アプローチから見る総称文—」『英語教育徹底リフレッシュ—グローバル化と 21 世紀型の教育—』211-217、開拓社、2017 年 4 月.
  - ・小藁哲哉 (2017) 「再帰用法の「自分」と述語の意味制約」『言語文化共同プロジェクト 2016: 認知・機能言語学研究 II』1-10、2017 年 5 月.
- 〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・小藁哲哉 (2016) 「日本語直接・間接再帰構文の受動態について—再帰・視点・因果連鎖」洛中ことば倶楽部、2016 年 12 月、於同志社大学.
  - ・小藁哲哉 (2017) 「日本語身体部位再帰構文と受動化」 Kansai Lexicon Project、2017 年 02 月、於大阪大学.
  - ・小藁哲哉 (2017) 「「自分」の再帰用法と述語の意味制約」日本言語学会第 155 回大会、2017 年 11 月、於立命館大学.
  - ・小藁哲哉 (2017) 「非飽和名詞の意味論と受動化」日本英文学会関西支部第 12 回大会シンポジウム「語彙・構文の文法現象における名詞の役割」2017 年 12 月、於京都女子大学.

〈研究助成〉

- ・文部科学省科学研究費若手研究 (B) (研究代表者) 『再帰構文における他動性と動作主性に関する対照研究』(No. 17K13446) (平成 29 年度～平成 31 年度)

[その他の活動]

〈管理運営〉 大学院教務委員会委員、ハラスメント相談員、英語リフレッシュ講座ワーキンググループ委員、言語文化専攻カリキュラムワーキンググループ委員、言語文化専攻新規開設科目教材開発チーム委員

〈学会活動〉 日本認知言語学会第 18 回大会開催校委員

〈社会貢献活動〉 英語リフレッシュ講座 (大阪大学大学院言語文化研究科公開講座) ディスカッションセッション講師、放送大学面接授業講師、出前授業「英文法の不思議と面白さ

—英語学入門」(2018年02月、於大阪府立槻の木高等学校)

**田村 幸誠 (TAMURA Yukishige) 准教授**

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 認知意味論研究 A/B

〈学部教育担当科目〉 英語(3), 英語(13), 英米文化 a/b, 英語学演習 Ia/Ib, 英語学特別演習 IIIa/IIIb

[研究活動]

〈研究テーマ〉 類型論的にみた英語とエスキモー語 (ユピック) の対照分析

〈所属学会〉 日本英文学会、日本認知言語学会、日本言語学会、国際類型論学会、アメリカ言語学会。国際認知言語学会

[研究業績]

〈論文〉

・ Tamura, Yuki-Shige (2017) "A Supplementary Description of the Use of Demonstratives in Central Alaskan Yup'ik," 『認知・機能言語学研究Ⅱ(言語文化共同研究プロジェクト)』 31-40.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・ 田村幸誠 (2016) "The Invisible Centerline and the Use of Thirty Demonstratives in Central Alaska Yup'ik," 第1回 大阪大学豊中地区 研究交流会, ポスター発表, 12月15日.

・ Tamura, Yuki-Shige (2017) "Grammaticalization and Nominalization in Central Alaskan Yup'ik," Nominalization Festa III (大阪大学国際共同研究促進プロジェクト, 年次大会) 7月8日, 大阪大学.

・ 田村幸誠 (2017) 「見えないセンターラインと空間認知表現」第7回認知文法研究会, 3月15日, 大阪大学.

・ Tamura, Yuki-Shige (2017) "The River Mouth and a Topological Mapping between Global Absolute FoR and Local Absolute FoR: A Perspective from Central Alaskan Yup'ik," Sociotopography: the Interplay of Language, Culture and Environment, 12th Meeting of the Association for Linguistic Typology, the Australian National University, December 15th, 2017.

・ 田村幸誠 (2018) 「ご兄弟は何人ですか? 私には兄が2人、姉が4人、弟が3人います」(エッセイ: ことば研究館 (国立国語研究所ウェブサイト内掲載)) .

〈研究助成〉

・ 「エスキモー語からみた指示詞と名詞化の共通概念基盤に関する認知類型論的研究」(科研費・基盤研究C, 研究代表者: 田村幸誠)

・ 「事態解釈とその言語形式に関する類型論的研究—再帰的受益者主語構文を中心に—」(科研費・基盤研究C, 研究代表者: 小熊猛; 研究分担者として参加)

[その他の活動]

〈学会活動〉 日本英文学会 編集委員、日本言語学会 大会運営委員、日本認知言語学会 大

会実行委員、関西言語学会 大会運営委員編集委員。  
〈社会貢献活動〉英語リフレッシュ講座講師

## 早瀬 尚子 (HAYASE Naoko) 准教授

### [教育活動]

〈研究科担当科目〉認知言語学研究

〈共通教育担当科目〉専門基礎 (ヨーロッパ・アメリカ言語文化研究入門)

〈学部教育担当科目〉英語 1 (Reading)・英語 3 (LL)・言語学の基礎・英語学講義・英語学演習・英語学特別演習

### [研究活動]

〈研究テーマ〉認知言語学的枠組みによる構文研究、言語の主観性、視点、日英比較

〈所属学会〉関西言語学会、日本英語学会、日本認知言語学会、国際認知言語学会(International Cognitive Linguistics Association)

### [研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

・西原哲雄・田中真一・早瀬尚子・小野隆啓 (共編著) (2017) 『現代言語理論の最前線』 開拓社 言語文化選書

・天野みどり・早瀬尚子 (編著) (2017) 『構文の意味と拡がり』 くろしお出版

〈論文〉

・早瀬尚子 (2017) 「多義語の分析 II — 認知意味論的アプローチ」 中野弘三 (編著) 『語はなぜ多義になるのか—コンテクストの作用を考える』 朝倉書店 80-105.

・早瀬尚子 (2017) 「認知言語学と英語教育」 今尾康裕・岡田悠佑・小口一郎・早瀬尚子 (編著) 『英語教育徹底リフレッシュ — グローバル化と 21 世紀型の教育』 開拓社 218-224.

・早瀬尚子 (2017) 「従属節からの談話標識化—speaking of which と granted」 言語文化共同研究プロジェクト 2016 『認知・機能言語学研究 II』 大阪大学大学院言語文化研究科. 11-20.

・早瀬尚子 (2017) 「従属節からの語用論的標識化—発話動詞関連の懸垂分詞構文がたどる新たな構文への道—」 西原哲雄・田中真一・早瀬尚子・小野隆啓 (共編著) 『現代言語理論の最前線』 開拓社 言語文化選書 231-248

・早瀬尚子 (2017) 「分詞表現の談話標識化とその条件」 天野みどり・早瀬尚子 (編著) 『構文の意味と拡がり』 くろしお出版 43-64.

・早瀬尚子 (2018) 「名詞の認知文法論」 西村義樹 (編) 『認知文法論 I』 大修館書店. 25-87.

〈翻訳・翻訳書〉

・ヘレン・ブラウン(著) 早瀬尚子(訳) (2018) 「哀しみの中で物語を紡ぐ—『クレオー小さな猫と家族の愛の物語』」 (安井真奈美 (編) (2018) 『グリーフケアを身近に: 大切な子どもを失った哀しみを抱いて』 (勉誠出版) 所収の著者講演の翻訳 14-25.

〈書評・論評・紹介〉

- ・早瀬尚子 (2017) 「構文研究の流れ：総論第 1 章」天野みどり・早瀬尚子 (編著)『構文の意味と拡がり』くろしお出版 3-8.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・早瀬尚子(2017) 「従属節からの談話標識化の諸相」欧米言語文化学講演会 招待講演 2017 年 2 月 3 日 (於奈良女子大学文学部)
- ・早瀬尚子(2017) 「従属節からの談話標識化の諸相：構文化の観点から」第 5 回語用論フォーラム 招待発表 2017 年 3 月 5 日 (於 京都工業繊維大学)
- ・Naoko HAYASE (2017) “From Participles to Discourse Markers: A Commonality of Dangling-participle-related Expressions,” International Cognitive Linguistic Conference 14, University of Tartu, Estonia (2017.7.20)
- ・早瀬尚子 (2018) 「認知言語学は語用論についてどのように考えているのだろうか？」第 14 回落中ことば倶楽部、2018 年 3 月 31 日 (於 大阪大学中之島センター)

〈研究助成〉

- ・文部科学省 科学研究費基盤研究 (C)『主観的事態把握と対人関係的機能の発達に関する多言語研究』(No. 26370564) (平成 26 年度～29 年度)

[その他の活動]

〈管理運営〉 評価・広報委員 (2017 年)、施設設備マネジメント委員 (2017 年)

〈学会活動〉 理事 (日本認知言語学会)、運営委員 (関西言語学会)、日本認知言語学会第 18 回大会開催校委員長

## 渡辺 秀樹 (WATANABE Hideki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 認知レトリック論研究、言語認知科学特別研究

〈共通教育担当科目〉 英語(Reading)、実践英語

〈学部教育担当科目〉 英語学演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 英語史、英語メタファー表現研究、英訳聖書訳語研究、時事英語リーディング方法論開発

〈所属学会〉 日本英文学会、日本英文学会関西支部、日本中世英語英文学会、国際英語正教授連盟 (IAUPE)

[研究業績]

〈論文〉

- ・渡辺秀樹 「Wilfred Owen の笑いの類語とメタファー：The Last Laugh は誰の笑いか」『交錯するレトリック 精神と身体、メタファーと認知 言語文化共同プロジェクト 2016』大阪大学言語文化研究科. 9-17.

〈書評・論評・紹介〉

- Hideki Watanabe, 2016. “Review: J. R. R. Tolkien, *Beowulf: a translation and commentary together with Sellic Spell*. Edited by Christopher Tolkien (London: HarperCollins, 2014) xiv + 425pp.” *Studies in Medieval English Language and Literature*, 31. Tokyo: The Japan Society for Medieval English Studies. 53-62.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- 日本中世英語英文学会西支部例会 於関西外国語大学 2017年6月3日 「第1次大戦戦地から生還した *Beowulf*: Wyatt 校訂版 (1894) と Gollancz 教授の現代英語訳断片 (lines 1159b-1622)
- International Medieval Conference (July 4, 2017 at University of Leeds) “The significance of *nacod niðdraca* (*Beowulf* 2276a) reconsidered: The metaphorical link interconnecting fire, a sword, a warrior and the monsters”
- 大阪市立大学英文学会 2017年12月2日 講演「*The Oxford English Dictionary* を研究と授業に利用する」

〈研究助成〉

- 2017年度科学研究費補助金基盤研究(C)「英詩メタファーの構造と歴史」(研究代表者)
  - 2017年度科学研究費補助金基盤研究(C)「英語メタファーの認知詩学」(研究分担者)
- [その他の活動]

〈学会活動〉 日本中世英語英文学会評議員

## 【外国語部会】(The Foreign Language and Research Division)

[英語]

**COHEN, Tamara(h), Specially Appointed Associate Professor (特任准教授)**

[Teaching activities]

<Foreign Language classes>

Elective English (English Reading), Integrated English II-III, Practical English, Advanced Practical English, English Speaking, Advanced English Speaking and English Writing: all taught as content courses using original materials made specifically for Osaka University students.

[Academic activities]

<Research fields and interests>

Transforming mandatory skills-based English courses into intellectually relevant, critically engaged learning opportunities. A small sampling from the 2017 academic year: Elective English (Reading), delivered as an Animal Welfare content course with an emphasis on the international issues arising from animal use in all its forms; Integrated English (for medical students), delivered as an International Gender Equality content course with an emphasis on narrative, analysis and policy prescriptions; Practical English, delivered as a Body Toxic, content course with an emphasis on

human and environmental health; English Writing, delivered as a Food Politics content course with an emphasis on health patterns associated with food and diet.

<Academic society memberships>

Gender Awareness in Language Education [i.e., GALE, special interest group of JALT]

[Academic achievements]

<Pedagogical Materials Writing>

Continue in the writing of original, critically-imbued, technologically-infused, modality-specific pedagogical materials that correspond, chapter by chapter, with adult-level non-EFL publications (used currently in lieu of commercial EFL textbooks). The 2017 academic year's addition to the list of original materials tailored to the specific needs of Handai students: *The Atlas of Food: With a New Introduction* (Paperback) by Erik Millstone. University of California Press; updated edition (March 1, 2013); ISBN-10: 0520276426; ISBN-13: 978-0520276420

[Other activities]

<Refresher Course, summer 2017>

LANGUAGE AND GENDER: A WORKSHOP

1. What is 'Male Normatively'? (Exercise and short video); 2. 'Avoiding Sexist Language' (handout and follow-up quiz); 3. The Myth of Female Volubility; 4. Encouraging "Fair Share" in the Classroom (video excerpt); 5. Content Analysis (of textbooks); 6. Resources

<Motivational Movie, 2017>

Lakmin Wickremasinghe: Model Osaka University Student on 'Purpose as Happiness' (16:42 minutes)

**GOVOROUNOVA, Alena, Specially Appointed Associate Professor (特任准教授)**

[Teaching activities]

<Foreign language classes> English Speaking, Practical English, Basic ESP, English Academic Writing, English Integrated Course, English Listening, Advanced English

[Academic activities]

<Research fields and interests> Cultural Studies, Comparative Religion, Science and Religion Dialogue

<Academic society memberships> International Association for the Psychology of Religion

[Academic Achievements]

<Papers>

- "Celebrating the Triumph of Nature in a Japanese Ecofantasy World: On the Buddhist and Shinto Motives in the Animation of Miyazaki Hayao," *Studies in Language and Culture* 43, *Society for the Study of Language and Culture*, Osaka University (in print)

<Grants-in-aid>

- *Beyond the Ivory Tower: Writing in the Sciences* Writing Workshop: John Templeton Foundation workshop and travel grant, 2017
- The C.S. Lewis Fellows Program on Science and Society: workshop and travel grant, Seattle Pacific University, 2017

**HELVERSON, Gwyn, specially appointed associate professor (特任准教授)**

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Interdisciplinary Cultural Studies A / B (seminars)

<Foreign language classes> English Writing, Practical English, Basic ESP, English Speaking, Advanced English (Reading), Advanced English (Speaking), Intensive English Training Course (ITC), English Integrated Course, Test Preparation Course

[Academic activities]

<Research fields and interests> TOEFL, Humanities (Japanese Studies, Gender Studies, Art History)

<Academic society memberships> The Japan Association for Language Teaching, Kyoto JALT, GALE (Gender Awareness in Language Education), CT JALT (Critical Thinking), GILE JALT (Global Issues in Language Education), European Association of Japanese Studies

[Academic Achievements]

<Papers>

- Students' Perceptions of Mixed Seating in the EFL Classroom. *The Journal and Proceedings of the GALE Special Interest Group of the Japan Association for Language Teaching 2016*, Vol. 9., 7-23.

<Reviews>

- Communicate in English with *The Devil Wears Prada* Book Review. *The Language Teacher*, Issue 4, January 2018.

< Conference presentations and lectures>

- Art history redefined: Japanese art as the new center? An analysis of Yamaguchi Akira' *Strange Japanese Art History*. *The Asian Conference on Arts and Humanities 2018*, March 31, 2018.

<Academic society activities>

- Lead Editor of GALE (Gender Awareness in Language Education) Journal
- Participant in the European Association for Japanese Studies conference, 2017.

<Social activities>

- Lecturer of Refresher Course for English Teachers

**Malik, Luke, Specially Appointed Assistant Professor (特任准教授)**

<https://osaka-u.academia.edu/LukeMalik>; [https://www.researchgate.net/profile/Luke\\_Malik3](https://www.researchgate.net/profile/Luke_Malik3)

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Philosophy of Mind.



<Foreign language classes> English Speaking, Advanced English Speaking, Practical English, Basic ESP, Media English

[Academic activities]

<Research fields and interests> Philosophy of Language, Philosophy of Mind

<Academic society memberships> The Philosophical Association of Japan

[Academic Achievements]

<Papers>

- Malik L. 2018. Category Mistakes: A Definition and Consideration of Their Meaningfulness. *Philosophia Osaka*, No. 13.

< Conference presentations and lectures>

- Resemblance and Exemplification. 76th Congress of the Philosophical Association of Japan. May 2017. Hitotsubashi University, Tokyo, Japan.

**TANG, Polly Liyen. Specially Appointed Associate Professor (特任准教授)**

[Teaching activities]

<Foreign language classes> English Speaking, Practical English, Basic ESP, Integrated Course, English Advanced Speaking, English Elective

[Academic activities]

<Research fields and interests> Peer Feedback, Discourse Analysis, Genre Analysis

<Academic society memberships> The Japanese Association for Language Teaching, The Japanese Association of College English Teachers

[Academic Achievements]

<Papers>

- Tang, P. (2017). A Qualitative Analysis on the Effectiveness of a Peer-Evaluation Process. *Kwansei Gakuin University Humanities Review*, Vol. 21 [refereed]

< Conference presentations and lectures>

- A Different Approach to Peer Review. Hawaii International Conference on Education; Waikiki, Hawaii; January 2017

[ドイツ語]

アウマン オリバー (AUMANN Oliver) 外国人教師

<http://www.oliver-aumann.de>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ドイツ語特別演習 A

〈共通教育担当科目〉国際コミュニケーション演習 (ドイツ語)、ドイツ語初級選択、ドイツ語中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉 日本学、比較宗教学

〈所属学会〉 日本独文学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ *Der Traum des Schmetterlings - Verwandlung und Erwachen im Buch Zhuangzi*. 文化の解読 17 (異動と衝突の文化現象) 大阪大学大学院言語文化研究科 2017、1-10頁。

[その他の活動]

- ・ 〈社会貢献活動〉 DAAD (ドイツ学術交流会) 留学アドバイザー
- ・ Japan Foundation (国際交流基金関西国際センター) 外国人研修生支援

フェーゲル ベルトリンデ (VOEGEL Bertlinde) 外国人教師

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Special Language Class B (German),

<Foreign language classes> German for students all faculties in the first and second year

[Academic activities]

<Research fields and interests> Förderung des flüssigen Sprechens bei AnfängerInnen, Sprachen lernen mittels chunks

<Academic society memberships> JALT (Japanese Association of Language Teaching), im Rahmen von JALT Mitglied der "Special Interest Groups" "Other Language Educators" and "Mind, Brain and Education", Japanische Gesellschaft für Germanistik (JGG), Verband der Deutschlehrenden in Japan (VDJ), Gesellschaft für Germanistik Osaka-Kobe (阪神ドイツ文学会)

[Academic Achievements]

< Conference presentations and lectures>

- ・ "Sprechen im Fremdsprachenunterricht: Eine empirische Datenanalyse zur Korrektheit und Flüssigkeit sprachlicher Äußerungen." – Vortrag am 2. Aug. 2017 auf der Internationalen Deutschlehrertagung in Freiburg/CH.

[Other activities]

<Academic society activities>

- ・ JALT: seit Nov. 2017 Coordinator der Special Interest Group „OLE“
- ・ JALT Osaka Chapter: Officer at Large

<Social activities>

- ・ Mitglied des Organisationskomitees für das 26. und 27. Seminar zur österreichischen Gegenwartsliteratur in Nozawa Onsen

[フランス語]

ガラベ クリストフ (GARRABET Christophe) (特任准教授)

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉 国際コミュニケーション演習 (フランス語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 文学と科学の関係 — 19世紀後半における大衆科学文学

〈所属学会〉 日本フランス語フランス文学会

[研究業績]

〈論文〉

- GARRABET Christophe, « Les récits de vulgarisation scientifique lecteurs et juges de La Fontaine (1850-1900) », 『表象と文化 XIV』 (言語文化共同研究プロジェクト 2016)、大阪大学言語文化研究科、pp.23-33、2017年5月
  - GARRABET Christophe, « Raconter les savoirs : les récits de vulgarisation scientifique dans la seconde moitié du XIXe siècle », in Laurence DAHAN-GAIDA ; Christine MAILLARD ; Gisèle SÉGINGER, *Penser le vivant*, Paris, Éditions de la Maison des sciences de l'homme, pp.289-307、2017年10月
- 〈研究助成〉
- 科学研究費補助金(若手研究 B:研究代表者)「通俗科学小説と自然科学の普及(1850-1900)」  
日本学術振興会 (2015-2018)

**SALAGNON, Benjamin, Specially Appointed Associate Professor (Full time)** (特任准教授)

[Teaching activities]

<Graduate School classes>

Special Language Class A, B (French)

<Foreign language classes>

International Communication Seminar (French), Intermediate French,

[Academic activities]

<Research fields and interests> Contemporary Japanese Literature

<Academic society memberships> IETT Lyon (Institute of Transtextual and Transcultural Studies)

[Academic Achievements]

<Conference presentations and lectures>

- 大阪大学フランス語フランス文学会第81回研究会「Entre libération du texte et uniformisation littéraire : le paradoxe de la littérature mondialisée chez Murakami Haruki」

<Social activities>

- Cowriter of articles about French and French Culture in the magazine ふらんす

[中国語]

**夏 嵐 (XIA LAN) 特任准教授**

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉 中国語初級、中国語中級、国際コミュニケーション演習 (中国語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 中国演劇、中国話劇史上の翻訳劇

〈所属学会〉 日本中国学会、中国比較文学学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「陈绵的意义」、『言語文化研究』第44号、2018年3月、大阪大学大学院言語文化研究科、169-186頁